

社会福祉法人ファミリーユ高知

2024年度 事業報告書

自 2024年4月1日
至 2025年3月31日

※赤字：変更箇所

① 高知ハビリテーリングセンター

事業所名	事業名（定員）	事業説明	ハビリの特長
障害者支援施設	自立訓練 機能訓練 20 生活訓練 6	自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練を行います。 機能訓練・・・1.5年間 生活訓練・・・2年間	機能訓練では主に病院退院後の身体・高次脳機能障害がある方に対して、継続したリハビリテーションと社会復帰に向けたアプローチを行います。生活訓練では知的・精神・発達障害がある方に対して生活の自律や社会参加、地域移行に向けたプログラムを提供し、特別支援学校卒業生の専攻科機能も有しています。 ※県内唯一の機能訓練事業所
	生活介護 14	常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排泄、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供します。	様々な障害特性を持つ方に対して、興味や関心が得られるその人らしい日中活動の提供に加えて、施設入所と協働して生活支援を行い、安心・安全な生活の実現を支援します。
	施設入所 40	施設に入所する人に、夜間や休日、入浴、排泄、食事の介護等を行います。	自立訓練への通所が困難な方や生活支援が必要な方に対して、心身の体調管理や食事・排泄・入浴等の介護、生活上での自立場面増加などを目的に支援を行います。
	短期入所（ショートステイ） 2 空床	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行います。	施設入所の利用状況に合わせて事業を運営し、レスパイトが必要な家族のニーズに応え、地域生活の継続に寄与します。
アルバーテ	就労移行 6 2025.4.1～休止	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。（2年間）	職業訓練だけでなく、職場実習を通して実際の業務を体験する機会を大切に、ジョブマッチングを図っています。また、就職後のサポートを継続して行う事で就労を継続し企業との連携を大切に支援を行っていきます。
	就労定着支援 2025.4.1～休止	障害福祉サービスを利用して一般就労に移行した障害者が就職した職場で定着して働き続ける為に、必要な支援を行います。（3年間）	
	就労継続支援B型 40	一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。	働くことへの意識や能力の向上を支援し、お掃除隊や施設外就労等、仕事としてステップアップが図れる仕組みや一般就労に向けて就労移行支援への移行も支援しています。
はるのハビリホーム	共同生活援助（グループホーム） 36	介護サービス包括型の類型を取り、障害のある人が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、共同生活住居において相談、入浴、排泄または食事の介護その他の日常生活上の援助を行います。	ホーム全体がバリアフリーとなっており身体障害者の方や様々な障害を抱えた方に対応できます。お部屋のタイプもユニットタイプ（居間・食堂など共有）とマンションタイプがあり、安心・安全な毎日を送っていただくように設備しております。

② しごと・生活サポートセンターウェーブ

事業所名	事業名（定員）	事業説明	ウェーブの特長
オウパス	就労継続支援A型 10	一般企業での就労に不安や困難がある障害者に、雇用契約に基づき就業の機会を提供します。（65歳未満）	地域の病院のユニフォームやタオル等のクリーニングを請け負っています。仕事をしていく中で自分自身の特長と向き合い、働き続けるためのスキルを学んでいます。クリーニング師の資格取得もすすめています。
スウェル	就労継続支援B型 40	一般企業等での就労が困難な障害者に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。	施設内では軽作業とクリーニング作業を行っており、施設外では病院周辺の清掃や地域の農家の方からの依頼を請けて畑作業やハウス作業なども行っています。また作業以外でも文化祭などの余暇活動なども行っています。



高知ハビリテーリングセンター 事業報告

センター長 西岡由江

はじめに

2024年度の高知ハビリテーリングセンター（以下、ハビリ）の一年を振り返り漢字一文字で表すなら「実」です。この漢字には3つの意味が込められています。一つ目は「実り」の実。私がセンター長として着任してから取り組んできた支援力強化、事業改革、経営戦略などやってきたことが形となり様々な実を結ぶ一年でした。二つ目は「実績」の実。2024年度の報酬改定はこれまで取り組んできた高次脳機能障害のある人への専門的な支援を評価していただき、ハビリにとって大きな増収実績を上げることができました。三つ目は「充実」の実。2022年から目指す職員像を「誰かの人生について本気で考え・行動できる」として掲げ、様々な学習の機会を取り入れ目の前の利用者の回復に貢献してきました。回復する喜びを共に味わい、人に感謝される体験は職員自身の充実感となり福祉の仕事へのやりがいに繋がったと考えます。

事業報告（事業計画に沿って）

➤その人が望む地域生活に繋ぐ『通過型施設』としての役割を果たします

高知県内の医療・特別支援学校などとの連携がはかれ、安定と継続した新規相談がありました。新規相談から見学・体験利用など、入口での丁寧な評価と動機付けに時間をかけることでその後の利用がスムーズとなり、利用者の自律に向けたサービスの提供ができました。結果、自立訓練から4名が地域生活場所へ移行され、日中活動も5名が就労（一般就労/福祉就労）に繋がりました。更にグループホームからは7名が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活に繋がり、障害のある方の地域生活への円滑な移行を後押しできたと考えます。

➤組織風土の醸成と人材育成

教育目標を「支援の真価を発揮～この支援が本当にその人の最善なのかどうかを問い・考える～」として掲げ、各事業の事業計画作成、個人目標管理の作成と個人面談を体系化し継続してきたことで、支援とは何かに向き合い、支援の喜びとなり、ハビリの職員として自信をもって働く風土が作られてきていると考えます。これは、職員のエンゲージメント向上、モチベーション向上に繋がり、結果として職員の離職率が7.2%と減少（2022年度21.5% 2023年度20.0%）、2022年度からの新採用3年以内の離職率は6.6%と人材が定着しやすい職場づくりができていると考察します。

➤健全な財務基盤の構築

2022年から全職員に対し「情報」「知識」「理念」を柱に経営の現状を伝え、健全な「経営的危機感」を共有し、その危機感をバネにして“ONE TEAM”で黒字転換に取り組んできました。職員全員と実践可能な目標稼働率達成に向け努力し、下記の表に示す実績を残すことができました。稼働率が低下している就労移行支援事業は2025年度で一旦休止し、夜間支援の施設入所とグループホームの稼働を90%以上にする取り組みが次年度の課題となっています。

	入所・短期入所	機能訓練	生活訓練	生活介護	就労移行	就労B型	ホーム
稼働率実績	85.8%	106.2%	118.1%	78.6%	49.0%	106.4%	84.6%

2024年4月の報酬改定により、脳損傷などにより記憶障害や注意障害、社会的行動障害などの認知障害を持つ高次脳機能障害者に対する支援を充実させるために高次脳機能障害者支援体制加算（報酬単価：41単位 × 当月の延べ利用数）が新設されました。支援対象者の30%以上が高次脳機能障害を有していることが算定要件として求められています。2023年度の利用実績にて延べ利用者の43%を高次脳機能障害者が占めており、算定開始することができました。この加算はハビリの事業にとって重要な位置を占め、増収への後押しとなる結果をもたらしています。

▶職員のワークアップを目指します

職員が生産性を維持しながら働ける環境の整備としてシステムタイムレコーダーを導入し、多様な働き方に対応できる勤怠管理のデジタル化を図りました。同時に、時間単位の有給休暇を導入し、柔軟な働き方を認めてワークライフバランスの向上に対する取り組みを開始しました。

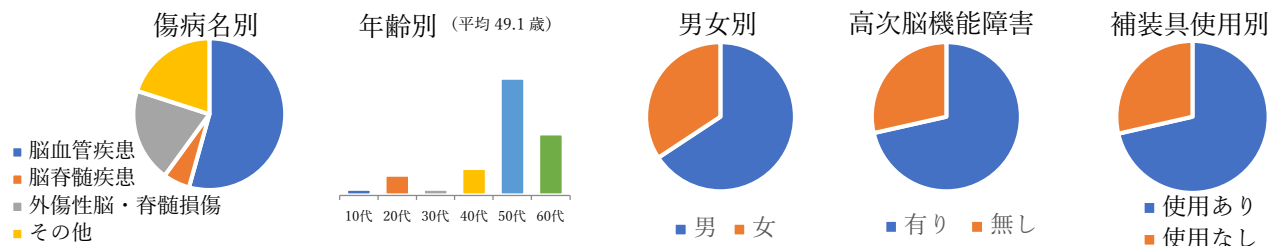
▶その他

エネルギーや食料品等の物価高騰に直面し、経常的な支出が増加する現状に対して物価高騰緊急対策給付金の交付を受けることや、外部委託業者の食材費（食費）の見直し交渉、ハビリ本館の電灯をLED照明に交換するなど、質の高いサービスを安定的かつ継続的に提供できるよう経営努力にて対応してきました。引き続き自治体による物価高騰支援策を活用し、業務やコストの見直し、従業員のロイヤルティや生産性を上げる仕組みを検討し実施したいと考えます。また、2025年度報酬改定により、障害者支援施設及び共同生活援助事業所において、地域連携推進会議の開催及び構成員が当該事業所を見学する機会を設けることが義務化されました。2024年度初めての取り組みでしたが、当事者、家族、春野内ノ谷地区自治会長含め地域の方々8名に参加いただき推進会議を開催することができました。地域の関係者を含む外部の目を定期的に入れることで、ハビリの事業運営の透明性を高め、支援の質の担保・向上につなげたいと考えています。

機能訓練

■2024 年度平均稼働率：106.2% 一日平均利用者数：21.2 名

■2024 年度利用者状況（登録者 35 名）



利用終了者（12 名（うち通所者 2 名））

転帰先(生活拠点) 10 名		転帰先(日中活動) 12 名		施設外を含む個別支援（自動車運転支援以外は延べ数）			
新居・自宅復帰	3	一般就労・復職	2	家屋訪問調査	11	職場訪問・来訪対応	28
グループホーム	1	福祉就労・就労移行	3	住宅改修支援			
当センター施設入所	2	デイサービス	1	補装具作成支援	28	就労移行見学・実習	6
障害者支援施設	2	生活介護	3	公共交通機関利用支援	4	福祉就労（A 型・B 型）見学・実習	8
その他	2	その他	3	自動車運転支援	8 名	その他外出支援等	5

利用者は 50 代の男性が多く、疾患では脳血管疾患が約 5 割を占め、車椅子・装具等の補装具の利用者は約 7 割、高次脳機能障害の併存者は約 7 割と、身体機能と高次脳機能両面での支援を要する方が多数を占めました。利用終了者で入所を利用されていた 11 名のうち 3 名は、住環境調整などの支援を経て自宅復帰を果たされています。日中活動としては 2 名の方が休職中であった元の職場へ復職することができ、2 名の方が就労継続支援 B 型・1 名が就労移行の利用に繋がりました。機能的な能力向上と生活能力の向上への支援に加えて、補装具適合や作成に向けた支援や自動車運転等の移動手段への支援、復職支援など、利用者の多様な利用目的に合わせた支援を行いました。

■新規利用者数：計 14 名（施設入所 13 名、通所者 1 名）

今年度は 43 件の問い合わせがあり、新規利用者 14 名となりました。近森リハビリテーション病院においては問い合わせ 9 件のうち 8 名が利用に繋がり、これは新規利用者の半数以上を占めています。今年 4 月、特別支援学校卒業後に利用が開始となったケースがあり、利用前や利用以降も情報交換や共有を大切に関わってきました。これ以降、同校より 3 名の高校生が見学や体験に来られています。これからも紹介元との連携や対応を丁寧に行い、地域・関係機関に機能訓練事業を広く知っていただきたいと考えます。

■2024 年度の事業目標達成度を評価

『支援者と利用者が“次の生活”を意識して取り組める支援づくりへ』

■利用者と支援者が同じ目標を見据える

利用者ごとに 3 ヶ月に一度ケース会を実施しています。今年度よりケース会に利用者にも参加して頂いたことで、利用者と支援者が課題や目標を共有し、訓練や生活に反映させやすかったと感じました。高次脳機能障害の方も多いため、利用者が目的を意識しながら取り組めるように、今後も日頃からの声掛けを大切に関わる必要があると感じています。

■ハビリの“人・環境”を生かしたプログラムを提供する

グループ訓練や今年度 5 月から始まった音楽療法での利用者同士の交流が、生活場面でのコミュニケーションや活動意欲に繋がる様子を見ることができました。利用者の課題に合わせ、利用者同士の強みも生かしたプログラム作りや支援の提供を今後も意識して行いたいと思います。

■繋ぐ支援

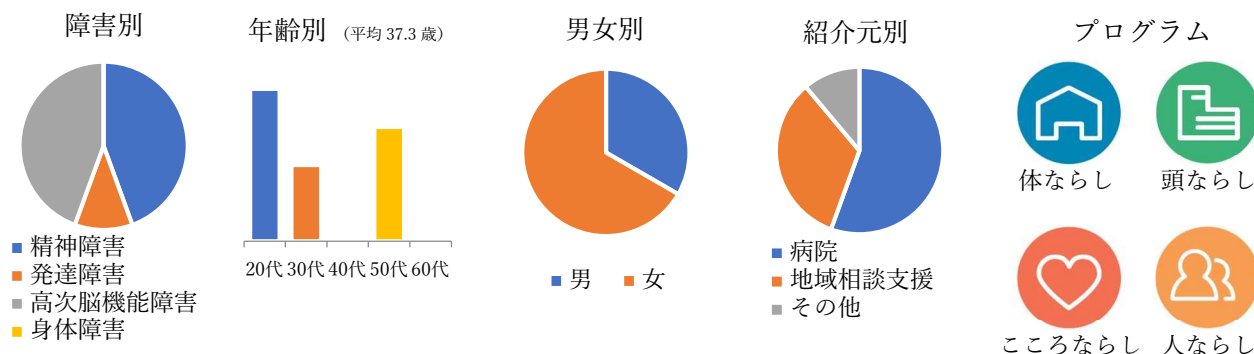
利用者の目標と、生活・過ごし方を考えながら次の生活先や活動先に繋げ、必要な環境や補装具の評価や準備などの支援に携わりました。引継ぎにあたっては、アルベータ（就労移行・就労継続支援 B 型）や生活介護、はるのハビリホームなど、同敷地内の事業へには見学・体験時から同行して職員との情報交換を行い、事業所間でのアセスメントの違いが明らかになった際には、繰り返し話し合いを行いました。復職に向けた支援では、就労移行部や職業センターと連携にも力を入れました。次年度は、施設外の事業所については、伝えるべき事・求められる事を意識し、丁寧な情報伝達を行っていききたいと思います。

生活訓練

■2024 年度平均稼働率 118.1% 一日平均利用者数 7.1 名

※2024 年度から、定員 10 名から 6 名へ変更

■2024 年度利用者状況（登録者数 9 名）



2024 年度は利用者 9 名のうち 8 名が昨年度から利用を継続されている方が大部分を占めていました。生活訓練 2 年目を迎え、利用者自らが定めた目標に向かってそれぞれが課題に向き合いました。生活訓練の特色である「集団の力を活かした訓練プログラム」を通して人と繋がり、その中で職員は個々の障害特性の理解に努め、生活と日中活動を一体的に支援することを意識することで次の生活ステージを目指す準備が促進されたと感じています。

■新規利用者（1 名）を含む利用相談の傾向

新規利用者 1 名は昨年度に体験利用を経た後に利用開始となった高次脳機能障害者でした。今年度の利用者全体に占める高次脳機能障害者は約半数の 4 名であり、身体的ハンディキャップの比較的少ない方の利用ニーズが高くなっているように感じます。新規利用相談 19 名のうち、今年度中に利用開始に至った者はいませんでした。2025 年に利用が確定している者が 1 名、継続相談が 3 名、機能訓練または生活介護の利用を経た後に利用見込みの者が 2 名であり、時間をかけて利用に至る方が多い事が特徴的でした。次年度も年間 100%稼働を達成するため、計画性のある受け入れを心掛けます。

■利用終了者（1 名）の転帰

	住む場所	日中活動
利用者 1	グループホーム	就労継続支援 B 型

■2024 年度の事業目標達成度を評価

『社会生活力の向上と評価』と『適切な移行先に繋げる』支援に努めます

■利用者自身が課題や目標を自覚し取り組む

個々の利用者の強みや課題を評価し、入所スタッフと目標を共有しながら生活能力の向上を目指すことができました。利用者の今後の生活ステージへの移行を見据え、服薬管理や金銭管理、掃除、洗濯などの日常生活動作から、集団活動まで様々なプログラムを通して各々の課題に向き合う時間を作ることができたと考えます。さらに今年度は受診同行やバス乗車訓練など、利用者のニーズに寄り添う支援と自立に向けた取り組みにも力を入れてきました。加えて、部会を定期的に開催しケース検討や今後の見立てを支援者間で協議することで、より良い支援に繋げることが出来たと考えます。就職希望のある方においては、関連機関との連携も図りながらトライアル雇用や支援者会にも積極的に参加し、利用者の新たなチャレンジに寄り添いました。

■次のステージを想定した様々なチャレンジ

支援者会等で見立てた目標を利用者と共有し、活動内で目的をもって作業に取り組むことができました。生活面では、今後必要になると思われる事柄を利用者と共有し、入所職員と情報を密にして課題改善に取り組んできました。利用者の次ステージへシームレスな移行を図るために、見学、体験を丁寧に行い、引継ぎを行ってしました。

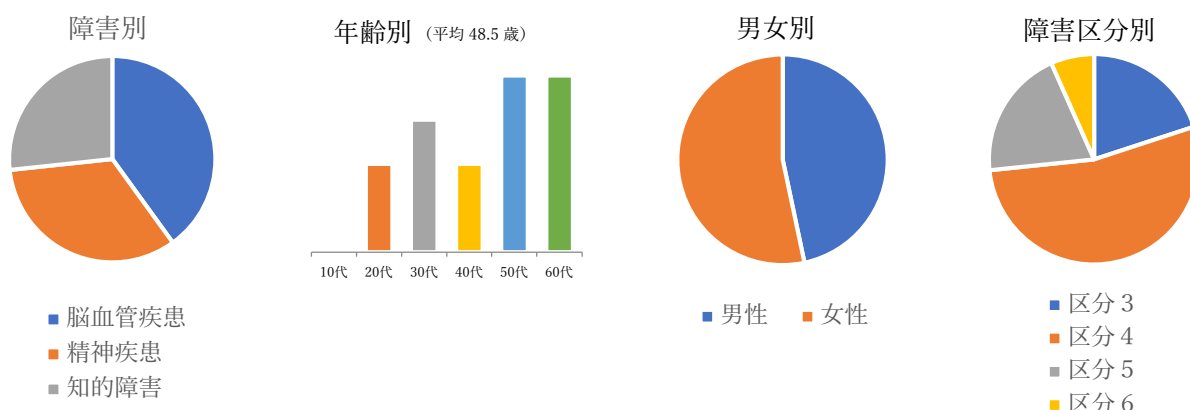
■新規利用者の獲得と支援

昨年度から継続している「見学・体験時から丁寧に関わること」に加え、生活訓練を利用した場合のイメージを持っていただくために、社会的自立に向けた生活訓練のプログラムや相談者のケースに応じた個別の提案等を行いました。また当センターの他事業との連携を図り、生活や就労の準備性を高める支援から開始することが妥当と判断された方に対して、生活訓練の見学や体験等の受け入れを行いました。

障害者支援施設 生活介護

■2024 年度平均稼働率：78.6%

■2024 年度利用者状況（施設入所併用 15 名）



2024 年 4 月より利用定員を 10 名から 14 名に変更し、1 日平均利用者数の増加に繋がりました。65 歳を迎えた利用者の次の生活場所への移行など利用者の意思決定を尊重し、安心して次への生活ステージに送り出せるよう取り組んだ 1 年でした。次年度も利用者主体の支援を大切にしながら、事業所として切れ目のない支援を提供します。

■2024 年度の事業目標達成度を評価

利用者が主体となり『意思決定支援』を実現します

■安心できる環境と人

セラピストやサービス管理責任者と共に退所後の生活を見据えた家屋訪問や施設見学に同行し、日々の生活支援で必要と思われた内容を反映した退所支援を心掛けました。その結果、利用者が安心して生活できる次のステージへ送り出す事に繋がりました。個々の利用者の課題に関しては、随時個別のケース会議を開催した他、外部の有識者からのスーパーバイズも積極的に活用し、別視点からの専門的アドバイスを学ぶことで、職員側が悩んでいる問題を解決することができました。

■健康管理

利用者の健康管理がより促進されるよう、朝礼時に血圧測定を含む体調確認の体制を強化し、加えて看護師や管理栄養士の専門職とともに体重管理や内服コントロール等の相談体制を見直しました。また、運動についても再考し、自立訓練で取り組んでいる体操の導入や屋外歩行練習を取り入れた、利用者の身体機能維持・向上に資するプログラムに進化させ、利用者に提供できました。

■challenge

誕生月の利用者お祝い、季節ごとのちぎり絵製作、ちぎり絵にポエムを添えて地域の春野文化際に出展など新しく challenge した 1 年でした。年末には歳末助け合い基金を利用しパーティー用の大きなデコレーションケーキを食べながら、1 年を振り返りながら楽しく終えることもできました。

■総括

利用定員数増加に伴い 100%稼働までの利用者獲得には至りませんでしたが、生活介護利用者の活動として様々な取り組みができた 1 年であったと感じています。利用者からの何気ない会話から出るやってみない事などへの挑戦に少しでも叶えられるよう今後活動の充実と、新規利用者獲得を目指して頑張っていきたいです。

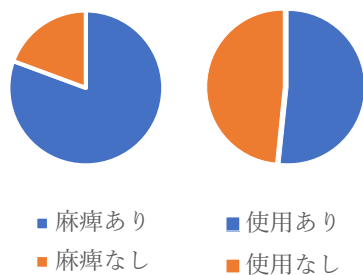
障害者支援施設 施設入所

■2024 年度平均稼働率：85.8%

■2024 年度利用状況

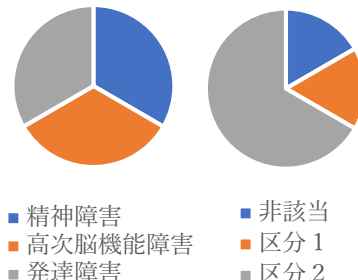
機能訓練（登録者 31 名）

麻痺の状況別 車椅子使用者



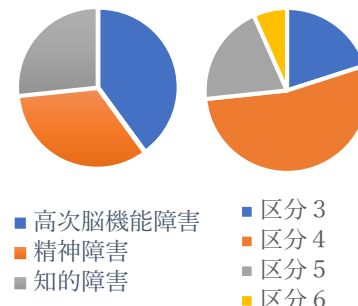
生活訓練（登録者 6 名）

障害別 障害区分別



生活介護（登録者 15 名）

障害別 障害区分別



■体験利用制度の定着

◆体験利用の実績

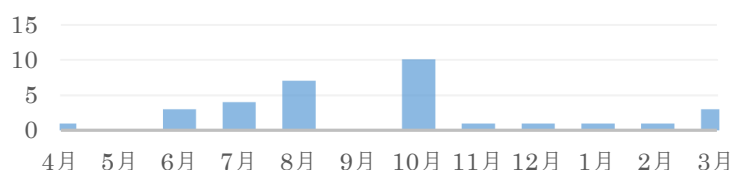
(年間 27 件の利用)

(正式利用 78%)

◆複数の日中事業を体験

よりよい利用へ繋がる

体験利用者数（人）



■2024 年度事業目標達成度を評価

安心して次の生活ステージに送り出せる事業所へ

■相互利益

今年度は利用者のニーズにあった支援が適切に提供できるよう、一人ひとりの利用者の目標達成を意識しました。その結果、過度な支援や修正すべき課題が見つかり、必要のない支援の見直しと業務改善に繋がりました。具体的には血圧計を詰所前に移設することで体調の自己管理ができる利用者が増加しました。また、職員管理していた水筒をウォータージャグに変更することで管理の自立に至りました。利用者にとっても使用しやすい環境への見直しを今後も図りたいと思います。

■問題解決

何か問題が発生した際にはそのままにせず、複数事業の職員が集まり、随時カンファレンスを実施しました。その結果、利用者の希望・目標を尊重した支援の提供に繋がったと思います。また、家族や医療機関・特定相談との連携も意識することで、職員側も新たな視点で考え・学ぶことで問題を解決できた1年となりました。

■KGU（介護技術アップ作戦）

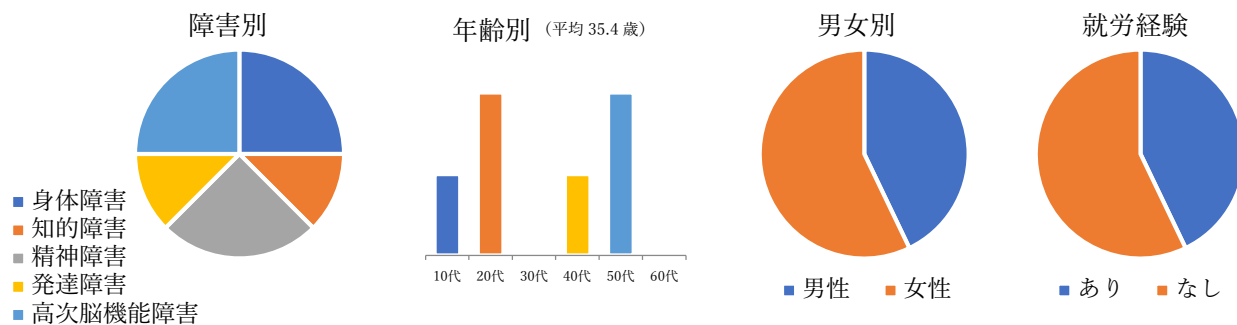
それぞれの職員が得意とする技術を新人職員に指導することや、外部講師を招いての勉強会の実施、外部研修会の参加などの学びを深めました。感染対策においては、施設内でコロナウイルスや感染症発生時の素早い対策（うつらない・うつさない）を徹底しながら取り組めたと感じています。

■総括

2024 年度は、利用者のトラブルに対してどのような対応をすればより良い生活が「送れるか」を考え工夫しながら取り組んだ1年だったと感じています。時には、家族・医療・特定相談・職員が一丸となってカンファレンスを実施し、それぞれの思いに寄り添いながら、信頼関係を築くことに力を入れてきました。別の視点からの思いや考え方を柔軟に取り入れる姿勢で、自分達の支援の自信に繋がったと思います。来年度は新人職員の教育指導に力を入れ、安心して働ける、さらに一つ上の仕事を任せられる、考えて行動できる人員を育てていき、職員一人一人が、利用者の変化にいち早く気が付き、柔軟に寄り添うことができるような職場作りに努めていきます。

就労移行支援

■2024 年度利用者状況（延べ登録者数 7 名）



2020 年に全国で約 3,300 事業所あった就労移行は昨年 10 月に約 2,800 事業所となった。全国的な流れは元々事業所数が少ない高知県（市）において目立っていないものの、登録者数は減少している。その上、幅広い個性の高いニーズに対応する体制整備は遅れをとり、実際登録者のうち半数が就職にも就労系サービスにもつながらず、また支援のミスマッチにより終了となった。

■利用終了者

一般就労：1 名

利用者	就職先	業務内容	就職日
ケース 1	Aitosa 株式会社	シシトウ栽培・収穫	2024/11/1

そ の 他：3 名（自宅：3 名）

利用者	利用期間	理由
ケース 2	約 4 カ月	訓練内容が合わず、自身で就職活動を希望
ケース 3	約 9 カ月	就労移行のやり方に合わせる事が難しく、訓練に通って来る事は、ストレスを高める事になるため
ケース 4	約 11 カ月	本人が希望する支援と訓練とのミスマッチ

■2024 年度の事業目標達成度を評価

Challenge 専門性を獲得し、選ばれる事業所に

■学ぶ

教育委員会の取組や研修など学ぶ機会を得ることはできたが、受け身であった

■個性性の重視

利用者に対する「評価」を本人に伝え、目的を共有しながらの支援が困難であった。本人の意向を尊重するばかりに「課題」が明確にならず、就職につなげることが難しかった利用者が複数いた

■協同する

必要な日常のやりとりは達成できたがリーダー不在であり、自ら行動することが遅く、受け身であった

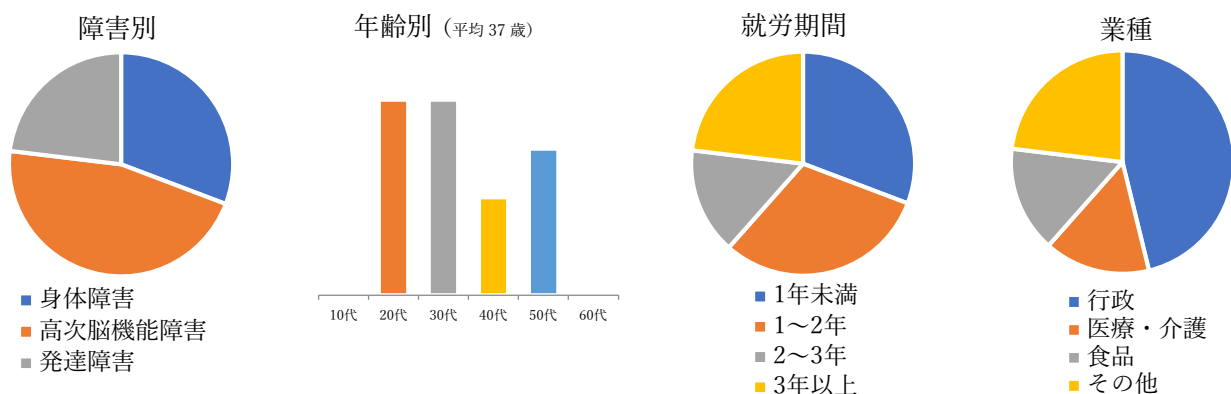
■総括

【丁度可知差異：一貫性を維持しながら市場の変化に対応していくために加え続けるパッケージや味などへのわずかな変更のこと】

2010 年にスタートした事業を 15 年経過した今年度末で休止する運びとなった。振り返ると 3 年前の 2022 年度から「人、物、支援」において大きな変化があり、その後 1 年ごとに立て直しを図るべく手を変え品を変えチャレンジを繰り返したが、軟弱な基礎の上に積み重ねた支援の限界と共に利用ニーズも大幅に減少し、利用者が就労するための支援体制整備も遅れをとった。休止に伴って利用者、家族、関係機関の方々にはご迷惑をかけるカタチになったが、一度足を止め、支援の再考を行うべき時期であるという判断に間違いはなく、また高知ハビリテリングセンターとしての「目の前の利用者の人生を本気で考え行動する」就労 Ver も違う方法で実践していきたい。

就労定着支援

■2024 年度利用者状況（延べ登録者数 13 名）



利用登録者は昨年度より増加し、1 名を除き本人の努力や職場での配慮もあり、就労が継続されている。上記データにもあるように行政に会計年度任用職員で雇用されている方が多く、最大 3 年で雇用が満了するため、その後の就職を考えると「働きながら求職活動を行う」必要が生じ、定着支援としての難しさが生じた。

■新規利用者：5 名

就職先	業務内容	就職日	定着開始日
パーソルダイバース株式会社	PC 業務	2023/10/1	2024/4/1
富士産業株式会社	厨房	2023/11/1	2024/5/1
四国部品 株式会社	事務	2024/2/4	2024/9/5
近森病院	ME サポーター	2024/3/18	2024/9/18
安芸市役所	事務補助	2024/4/1	2024/10/1

■利用終了者：5 名

就職先	業務内容	就職日	定着終了日
高知県庁	事務補助	2021/5/1	2024/4/8（退職に伴い終了）
エームサービス	調理補助	2020/11/2	2024/4/30（満期）
土佐市役所（つな一で）	清掃	2021/3/8	2024/8/31（満期）
土佐市役所	事務補助	2021/12/6	2024/9/20（本人希望にて）
四国部品株式会社	事務補助	2024/3/4	2024/12/20（退職に伴い終了）

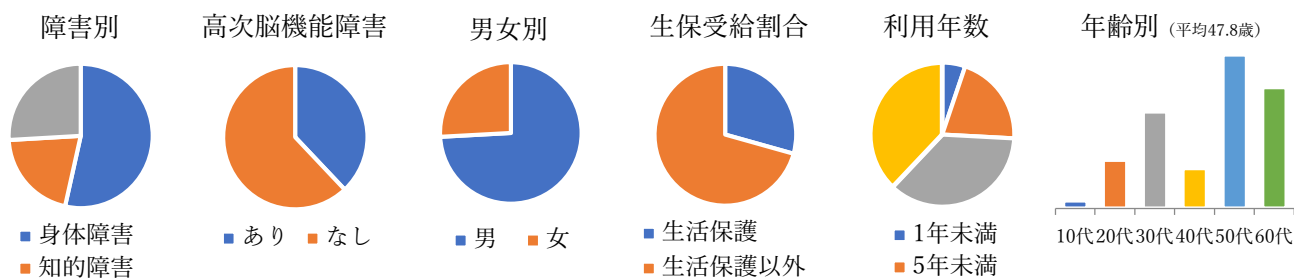
■総括

登録者 13 名のうち、1 名を除き就労は継続できている。1 名の方は疾患特性と環境因子（自宅から職場が遠方）が勤務する中でミスマッチとなった。このように業務面はスムーズに進んでいても【対人面】や【移動面】などが障壁となるケースが多く、月に 1 回以上を基本とする定着支援サービスの限界も感じる場所であった。そのため、【本人】へのアプローチと併せて雇用主である【企業】へのアプローチも必要性は高い。

また、会計年度任用職員のように単年更新かつ最大 3 年という労働条件の方においてはできるだけ早期に他支援機関と連携をしながら、転職支援やその後のサポート体制を構築することが必要だと考える。事業の休止に伴い、早期にそして「生活サポート」も踏まえた関わりが本人の就労継続、しいては生活の豊かさにつながると改めて気づきを得た部分も大きい。

就労継続支援 B 型

■2024 年度利用者状況を可視化（登録者 58 名） 平均稼働率：106.4%



高次脳機能障害を有する利用者が全体の利用者数の 37%を占めており、令和 6 年度より高次脳機能障害支援体制加算を算定することとなった。高次脳機能障害支援者養成研修を修了した 2 名の職員を筆頭に、障害特性に合った作業・環境を提供し、仕事の楽しさが自信、成長につながるような支援をチームで行いたい。

■新規利用者の傾向

1 名は当施設の他事業からの移行、2 名は特定相談からの紹介、体験を経て利用開始となった。

■利用終了者（11 名）

自宅：4 名 他施設（B 型）：5 名 他施設（生活介護）：1 名 他施設（介護施設）：1 名

■新算定基準に合わせた月額平均工賃の維持

2023 年度は報酬改定があり計算方式が変わったため、2024 年度の月額平均工賃は 30,564 円となった。結果、基本支援費が 676 単位となり、1 日 125 単位もの大幅増収につながった。新算定基準では利用人数、開所日数に重きをおいている為、土曜日開所は継続し、月額平均工賃 30,000 円以上の維持を目標とし、利用者とともに目指していく。（2025 年度の基本支援費は現状維持）

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
アルベータ	15,857	20,367	20,945	30,688	30,564
全国	15,776	16,507	17,031	23,053	未発表

■2024 年度の事業目標達成度を評価

ブラッシュアップした『アルベータマインド』を胸に、支援の質を高めるチームへ！

■支援の質を高める

利用終了者 4 名は体調不良による欠席や早退が多く、定期的に振り返りを行っていた。振り返りにて個々の希望や気持ちに寄り添い、それを実現するような手助けを行うことが出来た。

■売上 UP

取引業者から仕事に対する評価として 8 万円の寄付をいただいた

さんさん高知封入作業 単価交渉により年間 22,800 円増収

長浜西公園 清掃業務 単価交渉により年間 120 円増収

川村病院 新規洗濯物作業受託開始・ヒカリオンラインショップ 新規作業受託開始

柴田ケイコさんデザインによるグッズの制作・販売

※2024 年度就労収入 42,272,510 円（前年度比+2,670,779 円）

※2024 年度月額平均工賃 30,564 円（前年度比+124 円）

■一緒に楽しむ

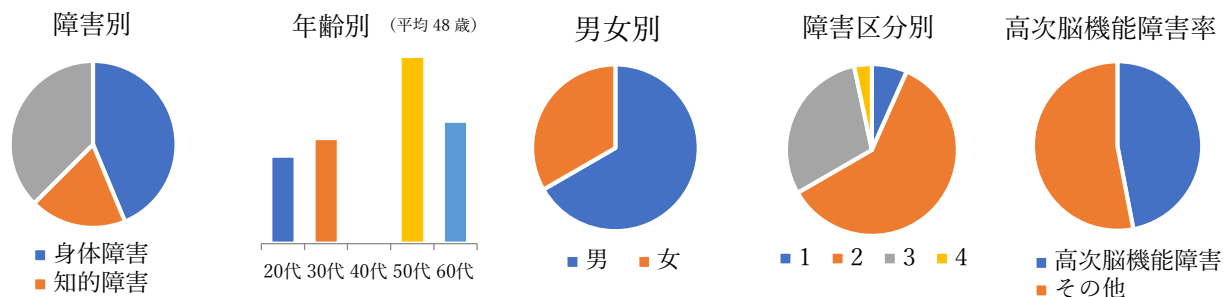
支援者も利用者とともに施設のイベントを楽しみ、地域住民と交流する機会を増やせた。

■総括

本人にとってできないことや困難なことを目標にするのではなく、本人の強みを活かした支援を行い、問題解決や目標達成の為に適切な支援を行うことが出来た。

はるのハビリホーム

■2024 年度利用者状況を可視化（登録者数 30 名） 平均稼働率：84.6%



新規利用者（6名）

	障害別	年齢	性別	紹介元
1	精神	30	男	ハビリ(生活訓練)
2	知的	54	女	特定(ウェブ)
3	精神	36	女	特定(佐川社協)
4	身体	50	男	ハビリ(機能訓練)
5	知的	37	女	特定(土佐清水社協)
6	身体	50	男	ハビリ(機能訓練)

利用終了者（8名）

	障害別	年齢	性別	転居先
1	身体	44	女	市営単身独居
2	知的	31	男	他グループホーム
3	身体	36	女	施設入所
4	知的	47	男	他グループホーム
5	身体	47	女	県営単身独居
6	精神	45	女	アパート独居
7	知的	57	男	自宅
8	精神	48	女	他グループホーム

新規利用者は6名と昨年度より増えているものの、利用終了者が8名おり登録者数は減少という結果になりました。当ホームは終の棲家ではなく、自宅復帰や単身生活への移行を支援しています。年齢と共に働き方・生活・病状の変化に合わせ適切な場所を考えるお手伝いもしています。このようにご本人のための支援を行う事で退所者が出る状況となるため、現利用者の支援と共に新規利用者の獲得にも力を注ぐ必要があると考えています。

■2024 年度の事業目標達成度を評価

入居者にとって人生の追い風となるサービスを提供する

■自立に向けて

この一年はご本人の希望する生活について丁寧に聞き取ることに注力しました。特にグループホームから一人暮らしや他のグループホームへの移行を希望する方については、支援者で情報を確認し、時期や段階付などを共有しながら支援を行いました。グループホームが終の棲家ではなく、ご本人の希望する生活のための移行機関としての役割を果たせるよう今後も支援を続けます。

■環境支援

今年度は世話人と支援員の業務分担を行い、余暇支援を充実させたいと考えていました。業務の分担は明確にしつつも、必要時には臨機応変に業務を行うことができました。余暇支援は年末イベントを開催しましたが、定期的な開催はできませんでした。今後は年間計画を立て、取り組みたいと考えます。地域資源の利用についても後押ししたいと考えています。

■意思決定

グループホームは集団の間ではありますが、個室はご本人のテリトリーと考え、生活の仕方や居室の使い方はご本人の意思を尊重しています。同時に自由に付随する責任を負っていただくことで、福祉施設の利用者というだけでなく社会の参加者として生活していただくことが出来たと考えています。

■総括

職員の異動や類型変更等、変化の多い年度とはなりましたが、目標に掲げた『自立に向けて環境を整え、意思決定を大切にする』ために職員が先回りをせず、ご本人が決定し責任をもって進むための後方支援を意識しました。グループホームがその方が安心して休める場、エネルギーを蓄える場となるよう今後も物理的環境・人的環境、支援を整えます。

安全衛生委員会の取り組み

■総括

毎月の安全衛生巡視においてご指導を頂き、労働環境を改善することが出来ました。また、指摘箇所の改善を通して、備蓄品の整理等を行った他、空調等の汚れについても清潔な状態を保ち、安全や衛生への意識を高めることが出来たと考えられます。

■安全衛生委員会

	実施日
第128回	2024年 4月18日
第129回	5月16日
第130回	6月20日
第131回	7月18日
第132回	8月15日
第133回	9月19日
第134回	10月17日
第135回	11月21日
第136回	12月19日
第137回	2025年 1月16日
第138回	2月20日
第139回	3月27日

巡視の様子



- ・実施内容
 - ・職員の健康状況（感染症・メンタルヘルス含む）を報告し助言を頂いた
 - ・前回指摘事項に対する改善状況の報告
 - ・安全衛生に関する情報提供
 - ・施設内巡視

■職員・職員家族 体調不良者状況

	非感染症	感染症	労災	その他
4月	5	1	0	1（子宮内膜症）
5月	9	5	0	0
6月	5	2	0	2（鼠経ヘルニア・貧血及び多嚢胞性卵巣）
7月	3	7	1	2（鼠経ヘルニア・片頭痛）
8月	7	7	0	3（ぎっくり腰・舌腫瘍及び上顎骨隆起・貧血）
9月	2	2	0	0
10月	7	0	0	0
11月	1	1	0	0
12月	2	6	1	0
1月	1	5	0	0
2月	2	2	0	3（てんかん・生理による体調不良・膀胱炎）
3月	1	6	0	1（蜂窩織炎）
合計	45	44	2	12

※感染症の詳細は感染対策委員会資料をご参照下さい。

2025年度へ

- ・毎日の体調確認と感染対策を行い、利用者・職員ともに健康を維持し事業活動を行います。
- ・安全衛生委員会を定期的で開催し、必要に応じて改善を行うことで作業環境の整備に努めます。

感染対策委員会の取り組み

■総括

2023 年度に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行となり、感染症法の変更に合わせすぐに対応マニュアルを変更することに不安があった。先日までは N95 マスクの装着や PPE の装着など完全防備であったことが、必要なくなるというギャップは受け入れがたく、職員へ周知していくことへの不安もあった。新型コロナウイルス感染症においては集中的な感染対策は必要ないということ、医療機関に相談し情報交換を行いながら、施設内でも日常的な感染対策に移行を行った。令和 6 年度からの診療報酬改定に伴い、医療機関からの感染症対応力の向上の研修を実施し、施設内ラウンドで感染対策の視点から実地指導をいただく機会があり、見直しを行うことができた。

■実施状況【毎月第 4 木曜日 15：10～】

	委員会開催日	職員研修
第 1 回	2024 年 4 月 25 日	新採用職員研修（2 名）
第 2 回	5 月 23 日	
第 3 回	6 月 27 日	感染対策研修 全職員対象 講師：近森病院 感染管理認定看護師 近森副看護部長
第 4 回	7 月 25 日	N95 マスクフィットテスターによるフィットチェック
第 5 回	8 月 22 日	採用職員研修（1 名）
第 6 回	9 月 26 日	
第 7 回	10 月 15 日	「施設内感染対策研修会」～薬剤耐性菌への対応～ 「手指衛生」 感染委員 1 名参加
第 8 回	11 月 28 日	手洗いチェッカーで手洗いチェック 全職員対象 吐物処理研修：各事業
第 9 回	12 月 26 日	
第 10 回	2025 年 1 月 23 日	新採用職員研修（1 名）
第 11 回	2 月 27 日	
第 12 回	3 月 27 日	



■実施内容

- ①月 1 回（第 4 木曜日 15：10～）の感染対策委員会の開催。
- ②新型コロナウイルス感染対策
 - ・「コロナ感染症 BCP」から「BCP（感染症）」へマニュアルを更新した。
 - ・新型コロナウイルス発症時のスクリーニングの方法の変更、環境整備の方法の変更、入所利用者の検温時間の見直し、時間分割で利用していた食堂利用時間の変更、パーティションの除去を実施した。
- ③診療報酬改定に伴い外部講師による感染症対策研修と実地指導を受けた。
- ④感染対策に関する知識・技術の向上を目的とした職員研修、手洗いチェックや N95 マスクのフィットチェックを行った。

■感染症発生状況(2025 年 3 月現在)

	職員	施設入所者	グループホーム 入居者	通所利用者
新型コロナウイルス感染症	24 人	1 人	14 人	3 人
インフルエンザウイルス	2 人	1 人	1 人	3 人

2025 年度へ

- ・感染状況に応じた感染対策マニュアル/BCP（感染対策）の更新を行います。
- ・感染対策委員の「感染に対する知識・技術の向上」に努めていきます。
- ・障害者支援施設における医療機関との連携強化・感染症対応力の向上に努め、研修を計画します。

災害対策委員会の取り組み

■総括

2024 年度も事前に職員や利用者を対象とした防災関連の講習会を開催した上で防災訓練を実施した。これによりそれぞれの防災意識の維持・向上に繋げることができた。また、8月の宮崎県地震での「南海トラフ地震臨時情報」発表の際は、委員が中心となって警戒態勢をとることができた。この他、委員会での備蓄品の検討（非常用トイレなど）や職員研修も予定通り行うことができた。

■避難及び防災訓練・講習会・連絡会

・実施状況

実施日	内容（対象）
2024 年 6 月 4 日（火）	水害訓練（利用者・職員） ・日中（日中想定）・グループホーム（夕方想定）
8 月 6 日（火）	防災講習（利用者・職員）
8 月 9 日（金）	施設内備蓄品・設備・避難場所・経路確認研修（職員）
9 月 3 日（火）	火災訓練（利用者・職員） ・施設入所（夜間想定）・日中（日中想定） ・グループホーム（夕方想定）
10 月 1 日（火）	防災講習（利用者・職員）
10 月 6 日（日）	高知市災害医療救護訓練研修（職員）
11 月 7 日（木）	地震火災訓練及び煙体験（消防職員立ち合い） ・施設入所（夜間想定） ・日中（日中想定） ・グループホーム（夕方想定）
2025 年 2 月 14 日（金）	施設内設備研修（職員）

※三誠産業株式会社協力

■災害対策委員会

- ・実施回数：14 回（2024 年 4 月～2025 年 3 月）
- ・実施内容：BCP の更新（5 月、11 月） 各避難誘導訓練・講習会の計画、実施、振り返り
備蓄品の提供と補充、防災研修

2025 年度へ

- ・災害時に起こりうる状況を情報収集し、より実際の想定に近い形での避難訓練を計画、実施
- ・BCP の見直し、更新
- ・各委員の災害対策、予防についての知識を高める
- ・備蓄品を利用した炊き出しの実施
- ・行政や春野地域との情報交換を行い、災害時の役割を考える

虐待防止委員会の取り組み

総括

■2024年度は、これまでの実績を踏まえ委員会の実施および研修のアップデートを行いました。

背景としては①部署や職員個々の意識醸成度の向上②日々の支援力向上に伴う初動対応および対話力、チーム力の結果だと考察しています。

9月には昨年度の法人研修を継承し、法人の監事でもあり、社会福祉法人愛成会理事長である仲野栄氏を招き、【医療・介護・福祉の現場における倫理～その本音と建て前】と題した基調講演と新たな取り組みとして近隣の施設にも案内を行い、89名（法人外33名）が参加した合同での研修を実施しました。来る南海トラフ地震対策など平時、有事でも連携できるネットワーク形成に派生するきっかけになったと考えています。

■虐待防止委員会

- ・年4回（4、7、9、2月）開催。事例検討実施。内容により障害福祉課と連携を取り対応実施。
- ・臨時虐待防止委員会実施。（1回）

内容：①機能訓練：4月、利用者から父親への虐待が疑われる事案

※行政へケースの相談及び支援者会を実施し対応。⇒行政が「虐待事案でない」と判断

②法人研修の検討、実施、振り返り

※過去の取組やアンケート結果をもとに検討し、現状の課題や新たな気づき、職員間、地域との「風通し：コミュニケーション」を意識した内容を実施。（全職員参加）

③委員会での検討内容の周知、共有について

※ルールに沿い、各科の部会議事録、日報等での記録、周知、共有を実行

④カスタマーハラスメントに対する規定の検討（案）

※厚生労働省が企業へ義務化を進める中での法人内における体制整備の検討

- (1)顧客、取引先、施設利用者その他の利害関係者が行うこと
- (2)社会通念上相当な範囲を超えた言動であること
- (3)労働者の就業環境が害されること

	実施日/内容
新入社員への法令虐待研修	新規採用職員を対象に実施。 内容：法人虐待研修動画の視聴及び自己チェックシートの実施
社会福祉法人ファミーユ高知虐待防止研修	2024年9月28日 会場：春野文化ホールピアステージ小ホール 時間：13：00～16：00 外部講師：社会福祉法人 愛成会 仲野 栄 氏

2025年度へ

- ・虐待防止研修の内容を早期に準備企画し、全職員の更なる意識向上に向けての取組強化
- ・虐待防止マニュアルの定期的な見直しおよび改善
- ・委員会等の内容を全職員へ周知徹底
- ・権利擁護の視点の醸成
- ・法定に沿った体制整備の検討

身体拘束適正化検討委員会の取り組み

■総括

2024年度は、昨年度バージョンアップした自己チェックシートを引き続き活用し、自身の支援の振り返り及び“気づき”を深めることを目的として実施しました。

9月には昨年度の法人研修を継承し、法人の監事でもあり、社会福祉法人愛成会理事長である仲野栄氏を招き、【医療・介護・福祉の現場における倫理～その本音と建て前】と題した基調講演と新たな取り組みとして近隣の施設にも案内を行い、89名（法人外33名）が参加した合同での研修を実施しました。来る南海トラフ地震対策など平時、有事でも連携できるネットワーク形成に派生するきっかけになったと考えています。

2023年度は委員会での検討を定例、臨時併せて19回実施しましたが、①キュールの休廃止

②障害者支援施設入所者の入替りによる対応変化③環境調整や職員間連携による支援力向上などにより検討が必要な事案が大幅に軽減したこと、また上記も踏まえ定例の委員会開催頻度を見直したことにより実施回数も定例4回、臨時1回の計5回の実施となりました。委員会開催することにより各部署からサービス管理責任者を中心に委員が出席し、コミュニケーションが図れていたことも、日常的に各部署はもちろんのこと、利用者の発展的な支援が進むにあたり、他部署との連携に繋がる機会も増え、利用者の不利益や職員間の連携レスが発生することもなく、カタチが確立できたことを大きな成果と認識しています。

■身体拘束適正化検討委員会 実績

1	2024.4.11	身体拘束適正化検討委員会(検討事例なし)
2	7.4	身体拘束適正化検討委員会(検討事例なし)
3	9.5	身体拘束適正化検討委員会(検討事例なし)
4	12.4	臨時身体拘束適正化検討委員会(外出制限のある利用者の事案検討)
5	2.20	身体拘束適正化検討委員会(前回検討した事案の経過報告)

※10月10日の法人研修振り返りについての議事録は「虐待防止委員会議事録」と同様のため、割愛

■身体拘束の現状：年度通じて対象者0名

2025年度へ

- ・身体拘束適正化研修の内容を早期に準備企画し、全職員の更なる意識向上に向けての取組強化
- ・マニュアルの定期的な見直し・改善 ・委員会等の内容を全職員へ周知徹底
- ・権利擁護の視点の醸成 ・法定に沿った体制整備の検討

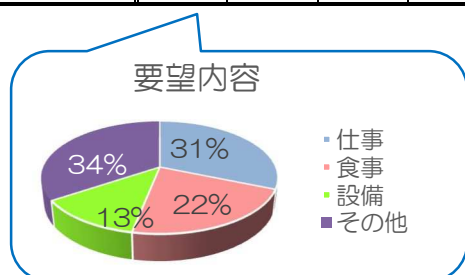
ご意見・苦情

■総括

利用者の方々からの意見を集めるために施設内4カ所にご意見箱を設置しています。ご意見箱に投書されたご意見はサービス管理責任者が週に1度回収し、迅速に問題解決に取り組んでいます。昨年度と比較するとご意見箱への投書は同数程度で、去年と比べると『不明』が減少し『要望』『苦情』が増えました。委員会では苦情内容に対応するだけでなく、苦情を抱えやすい、投書という形でないと表出できない状況にも注目し、支援体制についても考え対応しました。今後も苦情内容のみならず、投稿した利用者の内面も考えて対応したいと考えます。

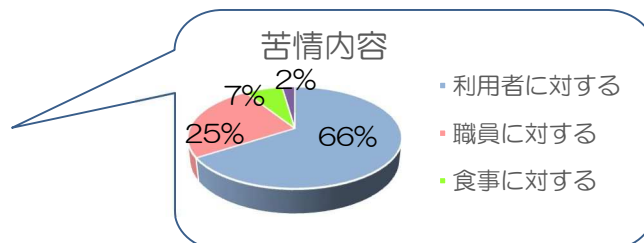
■ご意見箱の内訳

内容	要望	意見	不明	苦情	合計
2023年	22	20	75	23	140
2024年	40	10	49	44	143



要望例

- ・B型の職員を増やしてほしい・食堂の席替えをしてほしい
- ・自動販売機に野菜ジュースを増やしてほしい・イベントを開催してほしい



苦情内容

(利用者に対する)

- ・特定の利用者の言動に対するもの

(職員に対する)

- ・特定の支援員の声掛けに対するもの

(食事に対する)

- ・食事の内容に対するもの

上記の他に第三者委員への相談が1件ありました。以前も第三者委員に相談があった方で、今回も職員の対応について疑問を持った保護者の方が申し立てられたものです。今までは申し立て者と施設、第三者委員とで話し合いをしていましたが、今回は支給決定市町村、特定相談、病院など、ご本人に関わる多くの機関と問題を共有し、単に当施設での対応を考えるのではなくご本人の今後について適切な支援についての話し合うことが出来ました。

ご意見箱を活用いただくのは直接職員に訴えにくい内容だからこそだと思います。今後も定期的な回収・確認・対応を行い、適切な支援が提供できるよう各部署・委員会と連携していきます。そして投書の直接の内容のみならず、その方が投書するに至った背景にも関心を寄せ、個人に向き合います。

また、今後の課題として利用者さんから職員への暴言などのハラスメントについても指針が必要だと考えています。現在は不平不満を訴え職員を攻める、不当な要求をする方についても、要望がある方としてできるだけ丁寧に対応をしていますが、対応の難しさや対応する職員・攻撃対象となった職員の心理的な疲弊も心配されます。健全な関係性を目指し、利用者さんを大切に考えると共に職員の気持ちにも敏感でありたいと思います。

2025 度年へ

- ・苦情への迅速で適切な対応により利用者の満足度を高め、早急な虐待防止を講じ利用者の権利を守ります。
- ・苦情解決を密室化せず、客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めます。
- ・利用者と職員との信頼関係を大切にし、要望や意見を直接お伺いできる関係づくりを行います。
- ・苦情の内容だけでなく、その方の状況・心情に関心を寄せます。
- ・職員へのハラスメントについての指針について検討します。

教育委員会の取り組み

■総括

教育委員会が中心となって企画・実施している新人研修と成果発表会について、ここ数年の委員会活動の中で定着しており、今後も社会福祉法人全体の重要な教育計画であると考え継続していきたいと思っています。また、今年度に新たな取り組みとして実施した『3つの学び』は、各事業が趣向を凝らした学びの企画を考え、外部講師の力も借りることで事業全体のステップアップに繋がったと思います。今後も当センターにとって必要と思われる研修等の旗振り役として、主に事業内で教育を担う委員とともに活動していきます。

■実施内容 ※定例の委員会は毎月第2（火）に開催

①新卒採用職員および中途採用職員に対する新入職員研修の計画・実施

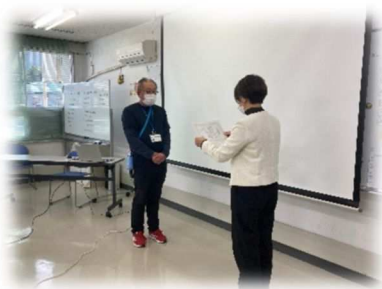
本年度は新卒採用職員1名、中途採用職員3名の合計4名に対する新入職員研修を計画・実施しました。新入職者が各事業の支援内容を知ることにより、職員・利用者をお互いに知る機会となりました。研修中の評価や新入職員の希望を確認した上で、研修後には適材適所の配置に繋がっていると思います。

②成果発表会の開催

昨年に引き続いて、第4回の成果発表会を開催しました。今年度はファミリーユ高知の役員や近森会グループの職員以外にも研修会参加を周知し、新規利用者の紹介元の職員が参加して下さるなど、当法人の役割や支援内容を周知する機会となりました。

③3つの学び

各事業が困ったり悩んだケースを元に講師を招いた研修会を企画した部署では、利用者の言動が障害特性によるものだ理解することで、利用者の見方が変わり支援の参考になった等、3つの学びを通してそれぞれの事業が支援を見直したり振り返る機会となりました。また、研修会の準備や講師の手配等を自事業で行ったことで、課題等を自分達で解決していく手段も身に着けることが出来ました。学んで終わることを目的とせず、学びの内容が自事業にとってどう活かされたのか、また今後の支援にどう繋げていくのかを大切にしたいと考え、各事業による発表会を行いました。今後もケースを深め、さらに支援力を高めていけるようになればと期待しています。



新人研修発表会



6月8日成果発表会



12月10日3つの学び会

2025年度へ

- ・新入職員の教育体制の見直しと指導力の強化
- ・成果発表会のマイナーチェンジ
- ・外部の有識者のスーパーバイズを受け、ケース理解を深める

地域交流委員会の取り組み

■総括

新型コロナウイルス感染の脅威がなくなった訳ではなく、常に感染状況を確認し、対策を講じながら、楽しい時間を季節の節目に過ごすことが出来ました。日常業務量が増える中、行事開催は普段と異なるエネルギーが必要となりますが、部署や所属の垣根を超えて交流することの意義はそれ以上の価値や目的達成につながると改めて感じました。今まで取り組んできた地域との連携事業「障害者スポーツセンターと共同秋祭り」「地域のお祭り参加」「スマイルプロジェクト」も継続して実施し、様々な地域貢献活動を通じて、高知ハビリテレーリングセンターを地域の方々に知っていただく事ができた一年であったと思います。

開催イベント一覧

実施日時	イベント名	内容
5月	端午の節句	こいのぼり展示
7月	七夕イベント  内ノ谷夏祭り	選択メニュー（マクドナルド風 or 吉野家風）
10月	ハロウィーン	仮装大会  
11月3日	ハビリの秋祭り  内ノ谷秋祭り	ステージイベント 利用者出店、外部業者出店、保護犬猫 フリーマーケット、もち投げ等 内ノ谷秋祭り参加 
12月	クリスマス	中庭にイルミネーションの展示
1月	お餅つき	餅つき体験、餅の振る舞い
3月	お花見	イベント食の提供

2025 年度へ

- ・四季折々の季節を感じるイベントの継続開催（各事業の担当制とし、企画運営を一任する）
- ・【やるなら 120% ハビリ全体で時に地域を巻き込んで】

栄養委員会の取り組み

■総括

今年度も利用者が楽しく・おいしく・季節を感じることでできる食事を、エームサービスと連携し、提供することができました。また、コロナ感染が発生した際は、入所と通所の利用者が交わることによる感染拡大を防ぐために対策をとることができました。

■実施状況

	実施日
第 1 回	2024年 4月23日
第 2 回	2024年 5月28日
第 3 回	2024年 6月25日
第 4 回	2024年 7月23日
第 5 回	2024年 8月27日
第 6 回	2024年 9月24日
第 7 回	2024年 10月22日
第 8 回	2024年 12月 3日
第 9 回	2024年 12月24日
第10回	2025年 1月28日
第11回	2025年 2月25日
第12回	2025年 3月25日



■実施内容

① 季節・イベント食の提供

季節に合わせたメニューや、クリスマス・お正月といった行事食など、普段の食事とは違った、利用者の皆様が楽しむことができ、季節を感じることでできる食事を提供いたしました。また今年度は、他の刺身を食いたいという利用者からの要望により、「サーモンのカルパッチョ」を提供し、大変好評でした。

② 栄養マネジメントの実施

施設入所の利用者一人一人と面談を実施するとともに、食事摂取量や体重等から評価を行い、栄養ケア計画を作成して、間食指導をする等の栄養マネジメント業務を行いました。

③ 食材料費の高騰による価格改定の検討

近年の価格高騰の波を受け、価格改定についてエームサービスと協議を続けております。今年度は他の障がい者支援施設へ訪問し、他施設がどのような価格設定をしているか話を聞き、また実際に食事内容や食堂の見学をさせてもらう等、参考になりました。質の高い食事を引き続き提供することができるよう、協議を続けてまいります。

④ 嗜好調査の実施（結果は後方に別添）

2025 年度へ

- 引き続き、利用者が季節や行事を楽しむことができる食事を提供します。
- 給食委託会社であるエームサービスとの連携を図り、質の高い食事の提供を継続します。
- 栄養マネジメント業務において、利用者が健康に過ごすための目標・行動を一緒に考え、サポートします。
- 食に関する情報の提供を継続します。

2024 年度 食事アンケートの結果

施設入所 管理栄養士 中平

食事についてのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
アンケートの結果をまとめたものを、公表いたします。

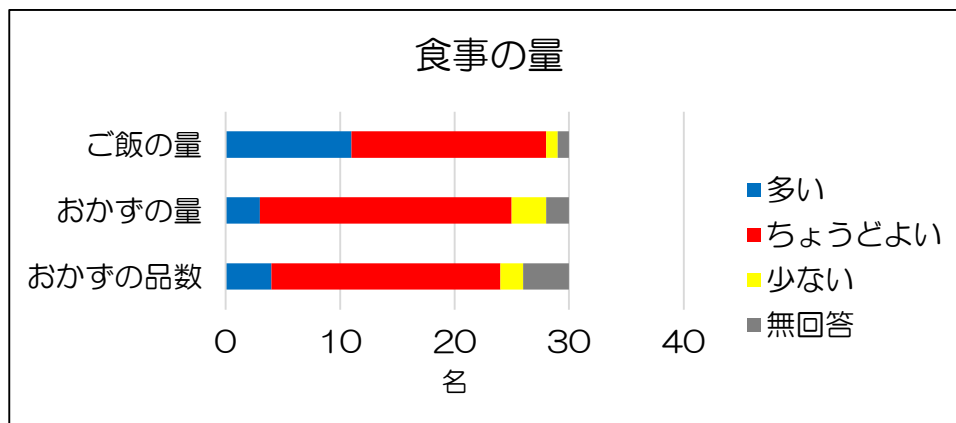
アンケート実施日：2025 年 1 月 14 日～1 月 20 日

対象：施設入所利用者 35 名

回答率：85.7%（35 名中 30 名）

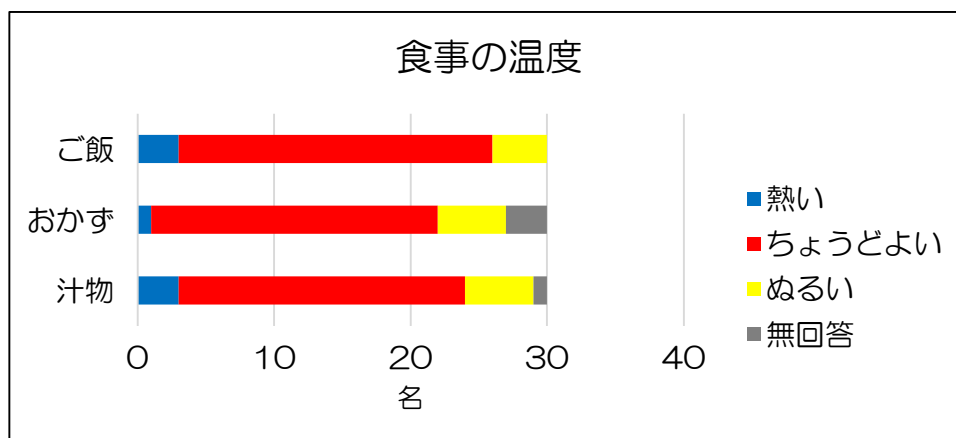
①食事の量・ 品数はいかが ですか？

	多い	ちょうど よい	少ない	無回答
ご飯の量	11 名	17 名	1 名	1 名
おかずの量	3 名	22 名	3 名	2 名
おかずの品数	4 名	20 名	2 名	4 名



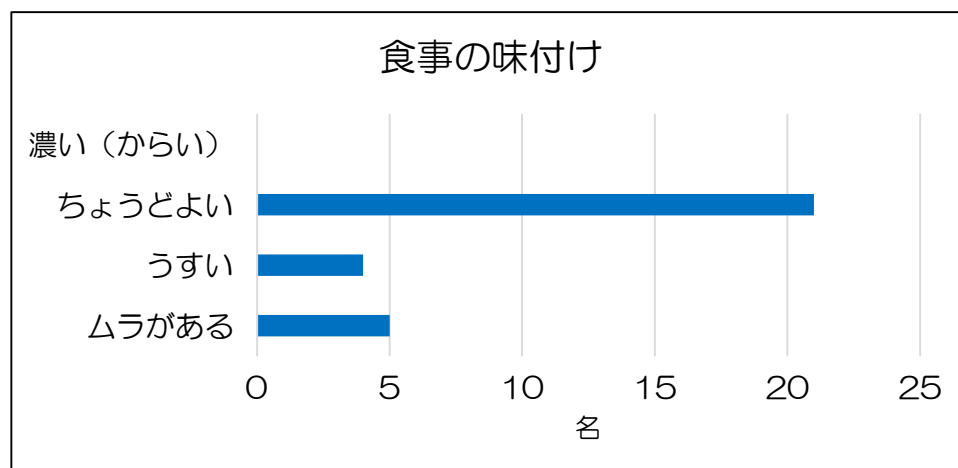
②食事の温度はいかがで すか？

	熱い	ちょうど よい	ぬるい	無回答
ご飯	3 名	23 名	4 名	0 名
おかず	1 名	21 名	5 名	3 名
汁物	3 名	21 名	5 名	1 名



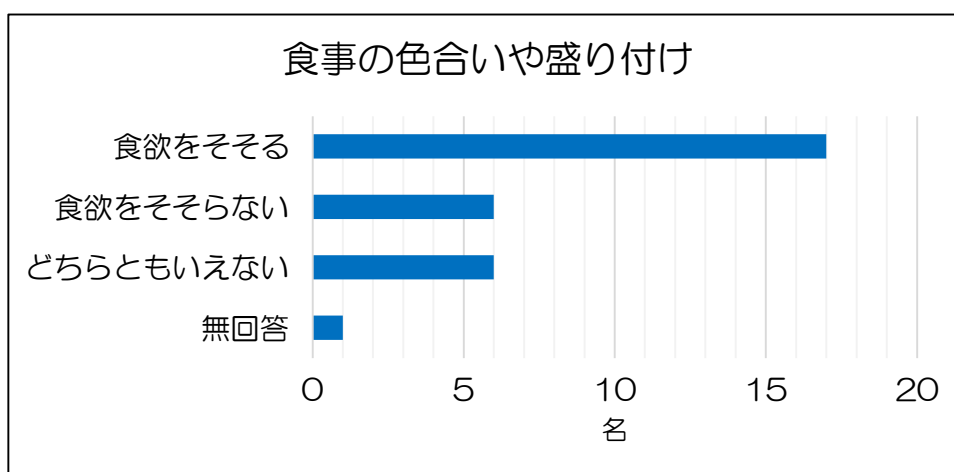
③食事の味付けはいかがですか？

濃い (からい)	ちょうど よい	うすい	ムラが ある
0名	21名	4名	5名



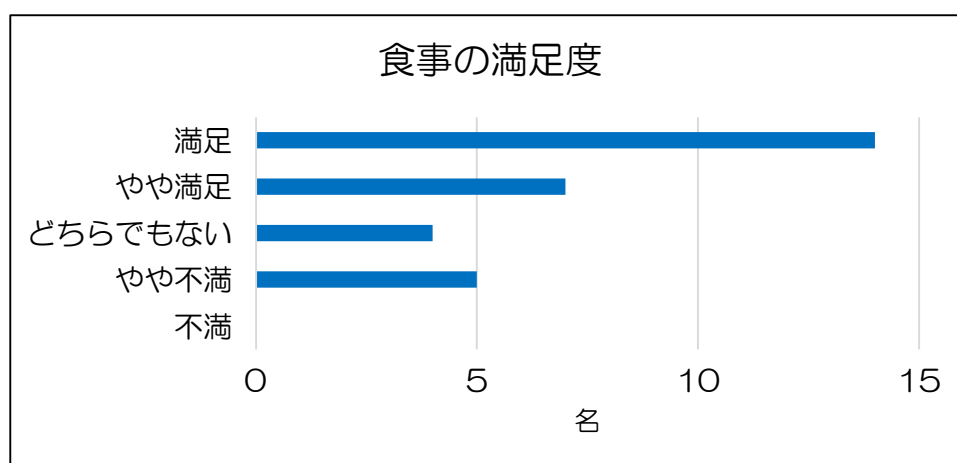
④食事の色合いや盛り付けはいかがですか？

食欲を そそる	食欲を そそらない	どちらとも いえない	無回答
17名	6名	6名	1名



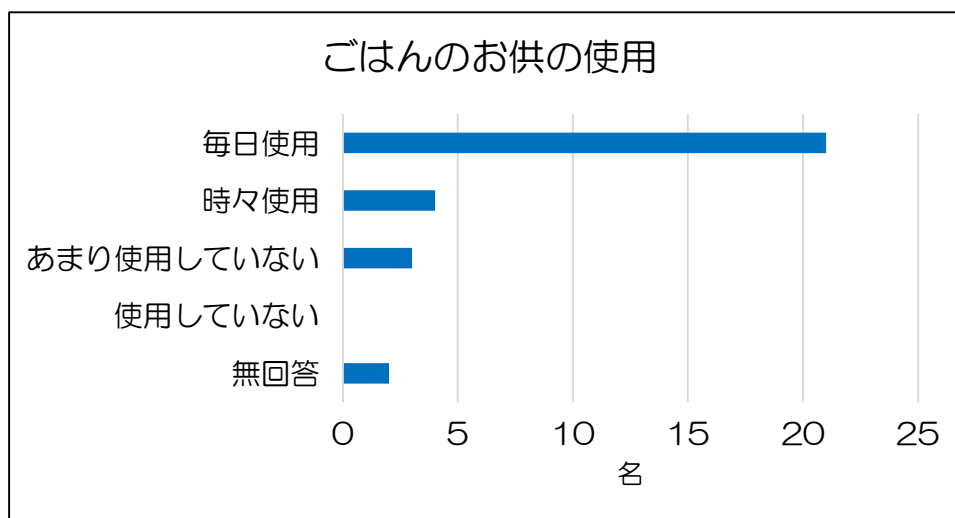
⑤食事に満足していますか？

満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
14名	7名	4名	5名	0名



⑥朝食に出てくる「ふりかけ」や「おかずみそ」などのごはんのお供を、使用していますか？

毎日使用	時々使用	あまり使用していない	使用していない	無回答
21 名	4 名	3 名	0 名	2 名



⇒○をした理由を聞かせてください。

【毎日使用】

- 楽しんでいます
- 食がすすむので出していただいたときは食べてます
- ヤクルトなどが使用しているので満足している
- 食べやすい
- おいしいから
- 白ごはんだけでは食べれないので
- いろんな味が楽しめるから
- ふりかけ等を切る時に困ったことがないです
- ごはんだけでは味が分からないので
- ごはんに合うので毎日楽しみにしています

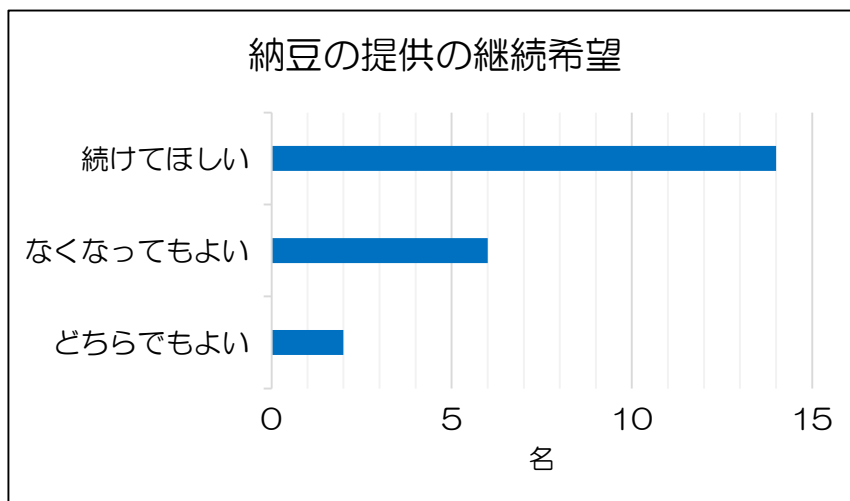


【時々使用】

- 味が濃いものが苦手なので
- 好きなふりかけの時は使う

⑦納豆の提供を希望されている方にうかがいます。納豆の提供を今後も続けてほしいですか？

続けてほしい	なくなってもよい	どちらでもよい
14名	6名	2名



続けてほしいと答えた方にうかがいます。
納豆の提供を今後も続けてほしいですか？

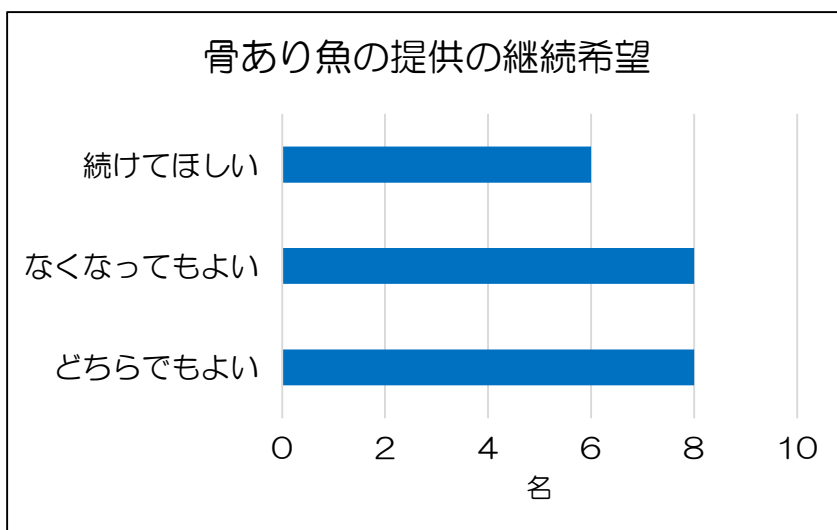
今のままで良い	それ以外
8名	6名

⇒それ以外と答えた方は、何回くらい希望されますか？

- 毎週（2票）
- 週に2～3回
- 毎日
- 3回くらい

⑧骨あり魚の提供を希望されている方にうかがいます。骨あり魚の提供を今後も続けてほしいですか？

続けてほしい	なくなってもよい	どちらでもよい
6名	8名	8名



続けてほしいと答えた方にうかがいます。
提供回数についてはいかがですか？

今のままで良い	それ以外
5名	1名

⇒それ以外と答えた方は何回くらい希望されますか？

- 5回

- ◆ 季節メニューやイベント食について、「これはおいしかった」「これはもっとこうしてほしい」などご意見がありましたら、ご記入ください。



＜おいしかったものランキング＞

1位 (5票)・・・サーモンのカルパッチョ

2位 (4票)・・・そうめん

3位 (3票)・・・うなぎ丼・シーフードナポリタン・夏野菜カレー・月見そば・おでん・釜めし・長崎ちゃんぽん・クリスマス

＜その他ご意見＞

- 12月のクリスマスを食べられなかったのでお願いしたいです
- 全国うまいものシリーズもやってみてはどうかと思います
- 全部おいしい。家では作れないのでありがたい
- おでんはとてもおいしかったです。欲を言えば辛子がほしかったです
- シチューの上のグリンピースはいらないと思います

- ◆ 現在提供されている食事の中で、好きなメニューや苦手なメニューがあればご記入ください。

＜好きなメニュー＞

1位 (5票)・・・カレーライス・ラーメン

2位 (2票)・・・肉、魚、麺類、ハンバーガー、寿司、納豆

3位 (1票)・・・

 丼物、かつ丼、五目めし

そうめん、冷やし中華

天ぷら類、からあげ、かつおのたたき、中華系

さつまいも、なすのたたき、サラダ、金時豆、根菜のごま酢和

え

日曜朝のコーヒー



＜苦手なメニュー＞

豆カレー、麺類、長崎ちゃんぽん

さばのみそ煮、かつおのたたき、魚の煮つけ、フライもの、鳥肉、揚げ物、魚

豆、おひたし、緑の豆類、青菜のあえもの、おくら、野菜をツナであえたもの、煮物、キャベツの酢味噌和え、わかめ、こんぶ、なす、しいたけ

◆ 「こんなメニューを出してほしい」など、お食事についてのご要望やご意見、気がついたこと等なんでもかまいません。ご記入ください。

- お好み焼き、ハンバーガー（3票）
- ピザ、ミートスパゲティ、おさしみ、シチュー（2票）
- お赤飯、ドリア、ラザニア、イタリア料理、もんじゃ、水餃子、麺類、丼物、天ぷら類、寿司、五目めし、温やっこ、オムライス、チキンライス、ビーフシチュー
- 焼き肉を食べたいです。キャベツと肉を炒めるやつでかまいません。
- もう少しケーキやアイスもほしい
- つけもののほしい
- 食後に果物や食べるヨーグルトを出してほしい
- 酸味が好きなので酢の物や酢味噌和えなどが食べたい
- ジョアの違う味を出してほしい
- 朝の乳製品をたまにヨーグルトが食べたいです
- 麺類の時に小さなおにぎりでもあると嬉しい
- クレープ等のデザートがおいしかったです。ああいった系統のものがもっと食べたいです

◆ まとめ

食事についてのアンケートにたくさんの方が回答してくださり、本当にありがとうございました。現在提供している食事について、多くの皆様に満足していただけているのかなという感想を持ちました。

今回、「ごはんのお供」についての質問をさせていただきましたが、7割の方が毎日使用していると答えていて、想像していた以上に使っていることが分かりました。

季節メニューやイベント食については、昨年度のアンケート調査で「他の刺身も食べたい」という意見から、今年度初めて「サーモンのカルパッチョ」を5月に提供しましたが、おいしかったイベント食ランキング1位となり、喜んでいただけたんだと感じました。

他にも、食べたいメニューをたくさん書いてくださっていましたので、皆さんに喜んでいただけるような食事を今後も検討し、提供していけたらと思っています。

ご協力、ありがとうございました。

ふくらむ委員会の取り組み

■総括

2024年度は新型コロナウイルス5類移行で少しずつイベントなども開催できる運びとなりました。各事業が精力的に取り組まれた活動を取り上げ、広報誌も充実した内容を載せることができました。地域との繋がり、利用者や職員の奮闘、目標達成報告など読み応えある企画を掲載できたと思います。さらに今年度は、発行部数の確認も行い必要部数を精査することに取り組み、前年度に引き続き3回の発行を実施することができました。

■委員会開催一覧

実施月	内容	実施月	内容
4月	春夏号記事確認	10月	秋号完成、発送準備作業、発行、校正新年号記事提案
5月	春夏号記事確認、校正	11月	新年号記事担当振分け、確認
6月	春夏号完成、発行 秋号記事提案、 発送準備作業、発行	12月	新年号記確認、校正
7月	秋号記事担当振分け	1月	新年号完成、発送準備作業、発行 春夏号記事提案
8月	秋号記事確認、校正	2月	1年振り返り、 春夏号記事担当振分け、確認
9月	// 秋号完成	3月	次年度委員決定、春夏号記事確認

■ふくらむ委員会

実施回数：12回（毎月1回第4火曜日）

実施内容：掲載記事の打ち合わせ

ホームページ掲載情報確認

発行部数：各号500部（新年、春夏、秋）

内関係機関発送部数：各号200部

（学校、医療機関、行政機関、事業所、福祉サービス事業所他）



■発送業者の見直し

配送料金の値上がりを受け、他社へ見積依頼を行いました。

【変更前】ヤマト運輸@132円→【変更後】@80円

200部発送の場合、10,400円の経費削減となりました。

2025年度へ

- ・読む人が笑顔になるような記事を掲載します。
- ・年3回の発行を継続し発送先においても精査し、広く広報誌を知っていただくように努めます。
- ・定期的な委員会活動を行い、記事の提案や情報共有を行っていきます。
- ・新たな取り組みや、頑張っている人にスポットを当て、楽しい紙面づくりを目指します。
- ・農福連携や地域との繋がりを大切にし、読み応えある記事を製作できるように努めます。
- ・配送事業の変革に伴う発送時のコスト削減や手続きへの対応へも柔軟に対応していきます。

ブレースチェックラウンドの取り組み

■総括

本年度のブレースチェックラウンドでは、施設入所利用者には能力に合わせた環境及び物品調整を行い、自立支援に向けた支援を図り、グループホーム入居者及び通所利用者は、昨年度の課題として挙げられていた「管理の必要性及び方法の知識不足によるメンテナンス不良の多さ」の改善に向け、取り組みました。その結果、利用者自身の気づきは高められることができたが、気づきから行動に移行するまでへの自立支援について、課題が明確となった一年でした。

■【対象者】

補装具・日常生活用具を使用している施設入所、グループホーム及び通所利用者

■【対象補装具】

- ・下肢装具（長下肢装具、短下肢装具、足関節装具、義足等 ※靴も含める）
- ・歩行補助具（杖や歩行補助具、車椅子 等）

■【活動内容・予定】

○入所利用者：入所初日の環境調整（ベッド環境、移動に必要な物品等）

生活や活動、今後の方向性を踏まえた環境調整と支援の導入

※場面や状況に応じた環境調整の為、日々の観察と評価から判断をしていく。

○グループホーム入居者・通所利用者：3ヵ月に1回 11:20～12:00

■【判定医療機関の実施状況】

対象：入所利用者のみ

判定医療機関：近森リハビリテーション病院

利用者名：63名

協力業者：（補装具）バイタルフス高知、かなへ義肢製作所、小豆澤整形器製作所
（車椅子）石原産業、テクノクラフト高知

■成果と課題

当委員会では、施設全体として、補装具や日常生活用具等の物品を適切に使用できる提案や修正を行うことで、生活や活動が安全に行える環境づくりを目的に施設全体に取り組み、2年目が終わりました。昨年度と比較すると、通所利用者については、車椅子や装具を含めた物品が良い状態や悪い状態の判断能力が高まり、ご自身から報告・相談をしてくださる方が明らかに増えました。一方で、支援者に依頼する方も増えた所もあり、その方の「自立」について、考える部分もあり、来年度以降の課題として検討していきたいと思います。入所利用者には、身体機能の能力向上や環境変化に合わせた評価を行続けることができました。しかし、課題も多く、利用者の変化に合わせた環境調整に追いつけていない部分も多くありました。現状の能力評価と想定される変化やリスクを考えつつ、チームで対応できる仕組みづくりを検討していきたいと思います。

2025年度へ

- ・引き続き、補装具・日常生活用具の評価・調整を図っていきます。
- ・「気づき」から「行動化」できる支援に取り組みます。
- ・上記内容と重ね、防げるインシデントやリスク管理、福祉サービスの安全の視点で支援します。

事故報告

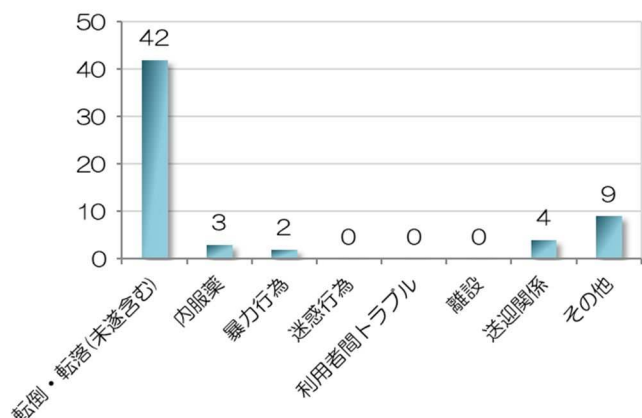
■総括

各事業で提出された事故やインシデント・アクシデント報告書では、利用者に影響がなかったインシデント 60 件（前年比－32）・アクシデント 4 件（前年比－1）・事故レベル 8 件（前年比－6）の報告が提出されています。事故レベル 3 は利用者同士の喧嘩、居室内コンセントからのショート、外部業者などの車事故、不適切な過去利用者の私物預かりなど 5 件、事故レベル 4 では訓練中の転倒による切傷（縫合処置）1 件となっています。レベル 5 では、グループホーム入居者による脅迫行為が 1 件報告されています。事故の該当者は 20 歳代から 50 歳代、身体障害や精神障害など心身に障害を負っておられ事故要因など様々な状況にあります。事故発生時には、迅速に現場検証を行い原因分析と対応を協議し、同じ事故が起こらないように努めています。

■事故発生状況

事故レベル	事故レベル定義	障害者 支援施設	アルバーテ	はるの ハビリ ホーム	法人本部	その他	全体
0～1 (インシデント)	ヒヤリ・ハットすることはあったが利用者に影響はない 何らかの可能性があり経過観察の結果影響はない	50	7	2	1	0	60
2 (アクシデント)	医療機関への受信が必要となった 受診の結果、縫合や固定処置などは必要なかった	3	0	1	0	0	4
3 (事故)	受託先や発注先とのトラブルやクレームに対して謝罪や弁償を行った。利用者間同士のトラブル	4	1	0	0	1	6
4 (事故)	事故のため通院治療や長期にわたり治療や入院が必要となった	1	0	0	0	0	1
5 (事故)	事故が死因となった 自傷・他傷（自殺企図や暴力）にて病院受診となった	0	0	1	0	0	1

■インシデント 60 件の内訳



【転倒の分析】

- ・移動様式は車いす 4 割、自立歩行 6 割
- ・転倒の約半数は高次脳機能障害者
- ・転倒の約 4 割が居室で発生
- ・日中（9 時～18 時）の転倒が約 8 割
- ・日中の転倒の約 7 割が訓練と就労時間外に発生
- ・転倒未遂の報告はなし
- ・転倒が 1 回のみの方が約 6 割
- ・繰り返し転倒する約 7 割が高次脳機能障害者

【アセスメント及び対策】

- ・移動様式の違いによる転倒リスクの大小は無く、個別のアセスメントが必要と思われる。
- ・高次脳機能障害の特性を医学的に正しく理解し、視覚支援や環境調整など具体的な対策案を速やかに実施し、絶えずアセスメントする必要がある。
- ・居室の環境調整や動作指導、訓練や就労時間外の生活場面に潜むリスクへの対策が必要である。
- ・単発の転倒で防ぐことができている方が多く、対策が有効に働いているものと思われる。

2025 年度へ

- ・事故等発生時において適切かつ迅速な対応をとるとともに、事故等の発生要因や再発防止策の実効性を検証し、利用者等に対するサービスの質の向上及び施設等の運営の適正化に努めます。
- ・車いすや補装具のメンテナンス不良による転倒が無かったことは、2023 年度に立ち上げた「ブレースチェックラウンド」の効果であると思われるため引き続き実施していく。

2024年度 第1回地域連携推進会議 議事録

事業所名	高知ハビリテーリングセンター	はるのハビリホーム
サービス種別	障害者支援施設	共同生活援助
所在地	高知市春野町内ノ谷63-6	
開催日時	2024年11月18日(月) 13:00～15:30	
開催場所	はるのハビリホーム2階会議室	
出席者 (計14名)	高知ハビリテーリングセンター入所者 1名 はるのハビリホーム入居者 1名 高知ハビリテーリングセンター入所者家族 1名 はるのハビリホーム入居者家族 1名 地域の関係者 1名 福祉に知見のある人 1名 経営に知見のある人 1名 高知市障がい福祉課職員 1名 高知ハビリテーリングセンター職員 1名 はるのハビリホーム職員 1名 管理者(センター長・副センター長・部長) 4名	
議題内容	(1) 地域連携推進会議の目的 (2) 出席者紹介 (3) 利用者2名より当センターでの生活について説明 (4) 施設見学(2グループに分かれてラウンド) (施設入所/生活介護/自立訓練/就労継続支援B型/就労移行/はるのハビリホーム) 全事業の見学 (5) 施設運営状況に関する説明 2023年度事業報告をもとに説明 ・感染対策委員会の取り組み ・災害対策委員会の取り組み(BCP策定状況含) ・虐待防止委員会の取り組み ・身体拘束適正化委員会の取り組み ・ご意見と苦情に関する報告(第三者委員への相談内容含) ・教育委員会の取り組み ・地域交流委員会の取り組み ・栄養委員会の取り組み(2023年度食事アンケート結果) ・ふくらーむ委員会の取り組み(ふくらーむ配布) ・事故報告 ・経営状況報告(2023年度決算書にて報告) (6) 利用者アンケート結果報告 アンケート期間:2024年11月4日～11月11日 回収率(施設入所 81.1% はるのハビリホーム 74.2%) ※アンケート結果は資料として配布	

<推進委員より> 見学の感想と質問	【質問 1】 新しく職員さんを採用されたりされる際の資格者の割合や、入職後の教育体制・定着率について聞きたい。 ⇒介護福祉の業界は人材不足で、応募はありますが非常に少ない現状です。提供しているサービス事業については資格要件が決められているものもありますが、グループホームに関しては資格要件がありません。入職者の特長（長所）を活かす部署への配置を行うために約1カ月半の研修を実施しています。配属部署決定後も本人およびその他の状況を含めて法人全体での異動も実施し、全体のバランスをとっています。離職率に関しては、最近2年は低下しています。 ⇒障害者支援施設では、専門職（理学療法士もしくは作業療法士）の配置が必要ですが当事業所では手厚く配置しています。そのような状況もあり、人件費率は70%を越えています。配置の意図は「初期評価が出来る職員を育てたい」という想いです。利用者への支援はもちろん、他の職員と一緒に支援の質を考えていく軸を担ってもらっています。支援対象者の特徴をつかみながら支援するために欠かせない障害理解がまだまだ未熟ではありますので、利用者ひとりひとりに対して一緒に向き合うことを専門職中心に行っております。 ⇒今年度の教育目標を「3つの学び」とし、各事業で「自分たちが学びたい」「苦手だな」などテーマを3つ考え、テーマに対して外部講師の協力を得ながら取り組みました。更に支援の検討が必要な時はすぐカンファレンスを行い、必要な際は外部の専門家を招いてスーパーバイズを受けています。 【質問 2】 すごく印象的なのが、どこも隅々まできれいに掃除も行き届いており清潔感を感じました。またトイレのほうもおいをいっさい感じることなく日頃からの清掃が行き届いている成果なのかなと思いました。質問は、トイレの中に荷物を置く場所や杖を掛ける場所がなかったのですが、何らかの理由があつてのことでしょうか？ ⇒トイレの物置やトイレフックは特に理由があつて設置していないわけではありません。様々なハンディキャップに合わせて必要な備品としては都度設置しています。トイレ杖ホルダーはトイレ以外も含め設置するようにします。 介護保険サービスが65歳からになりますが、在宅で障害福祉サービスの支援を受けられている方が介護保険サービスに変わったとたん、なかなか今まで受けれたサービスが受けられなくなり、不平・不満・苦情というところに繋がる主な原因になっております。ハビリのほうで注意してる点とか、ご苦労されてる点とか、成功事例失敗事例あれば聞かせて頂きたい。 ⇒65歳で利用するサービス制度が変更する点のご利用者さんがこの先生活がどうなっていくのかいざ不安を感じられる点です。その時急に今後の生活を考えると焦ってしまうので、当事業所では63歳になった段階から半年、長い方は1年半かけて次の生活に対するご本人のイメージの共有をサービス管理責任者中心に実施し、時間をかけて
------------------------------------	---

準備をしていく事を大切に支援させて頂いています。

⇒成功例失敗例ではないですが、当事業所の入所を長期利用しての方が介護保険サービスへ移行するタイミングで「家に帰りたい」と強く希望されました。ただ、その方の自宅は生活できる環境ではなかったので、ご家族の協力も得て試験外出までチャレンジしました。結果、排泄の介助場面において施設ではコールを鳴らすと常に職員がサポートしてもらえるが、単身生活ではヘルパーさんが来てくれるとは言え現在とは異なる点をご本人さんが痛感され、最後は「高齢者施設で安定した老後を迎えたい」という自己決定された例がありました。希望する自宅生活につながれば良かったと思いますが、ご本人が【しっかり自分の今後の事を考えて】、試行錯誤を支援者と共にしながら自己決定できた点が、成功だったと捉えていますし、今後の支援においてもそのようなプロセスが踏めるように準備しております。

【感想】

これまでアセスメント等、入所、機能訓練、生活訓練でも生徒がお世話になっています。見学の中身もそうですが、専門職のサポートを手厚くして頂いています。生徒は2泊3日～2週間という期間で数回体験させてもらい、その都度評価会を頂いて、各部門の担当者からアドバイスを頂いています。

教員の目以外の情報は直接こちらでお世話にならない生徒にとっても「残りの学生生活をどう過ごすか」という点にとって良い振り返りにもなっています。地域の事業という立場で言っただけというのは本当にとってもありがたく、良いお付き合いをさせてもらっているなと思っています。実際学生が体験させて頂いている場面を拝見していても、通過型と言われるように、次のステージを見据えた支援が提供されていて「先を見る」という点で勉強させて頂いてます。

【感想】

話のあったクレーム対応を聞いていると極めて微妙な内容だと感じました。そういうことを誠実に取り組まれていて、本日のような会はそのことを隠せない会なので、小さい事ではあるが、しっかり報告されていてすごくしっかりしてると思いました。

【感想】

本日改めて見学させて頂いて、やっとわかりました。子どもが小さい時に色んな話を聞いてもほんとにわからなくて…。本日しっかり事業内容を見て、全部繋がってきました。本日のこのような会が出来たことが凄くうれしくて、今一生懸命悩んでいる親御さんにたちにも知っていただきたいなと思いました。息子がお世話になっていた学校職員さんがこうしてお越しくださっていることでまた学校と繋がれたことや、うまく連携ができていていることを聞いてすごくうれしいです。

ハビリは障害者スポーツセンターに隣接している立地なので、スポーツをする機会を増やしてもらえたらと思います。スポーツはすごく色んな人と関われるし、意外にできないと思ったものが結構できたりもします。そうしたら一般の人と関わる機会も増え、大人になって色んな所に行っても友人が増えてきたりなどするので、そういう機会も増やして頂けたらいいかなと思います。

息子からハビリに対するクレームなどの話を聞いてたら、ちょっと辛い時もあります。自

分も福祉のところで5, 6年働いてたんで福祉の大変さを分かってるんで、だからやっぱり感謝してありがとうございます。何か失敗して助けてもらったら感謝だけはちゃんと言いなさいと言ってます。少々辛いと言ってかかってきても、それくらいの事やったら気にしたらいかんという感じで言ったりしたりしながら今に至っています。今はとても元気に楽しく過ごしているので、ひとつよろしくお願いします。

【質問3】

虐待防止委員会や身体拘束の委員会などを定期的に実施されてるかと思うんですけれども、その中で、苦勞してる点とかこどうしたらいいんだろうとか、そういったことをお聞かせいただきたいと思います。

⇒身体的虐待のように叩いたら絶対ダメというのは全職員理解していますが、今回虐待認定を受けた事案で、利用者さんのことを心配して言った言葉が仇となると、支援者が何も言えなくなります。結果、信頼関係が築けず支援ができなくなる事になりハビリでの支援を終了することになりました。また、身体拘束に関しても、家族から、借金作るから絶対誰も会わせないでほしいと通信制限・面会制限をお願いされたりすることがあります。ご家族の立場に立つと何かしらの協力はしたいと思いますが、ご本人の意思決定を無くして制限はかけられないので、こういった判断が難しい事例に苦勞しています。判断に困った時は、必ず障害福祉課に相談するようにしています。

【利用者要望】

入浴をするときに車椅子のままで入ることができる風呂桶ができるといいかなと。湯船に一時浸かる事はありませんでしたが、そこから上がる時に左足がちょうど内側に向きかけて、もうそれで捻挫をしそうになりかけたことがありました。

⇒他の事業所では全身浴という形で、車椅子に乗ったまま全身を洗う機械を設置しているところもあります。お風呂に浸かりたいという希望をどこまでかなえることができるか現時点でお答えすることは難しいですが、検討議案として部署で協議していきます。

【利用者感想】

私が、休みの日の朝は、ウォーキング行ってます。春野町の人で会う人がいるんです。その人に、おはようございますと軽くご挨拶したら、おはようございますって会釈してくれます。また、ランニングしている人達がいるんですが、その人達も会う度におはようございますって元気に声を返してくれて、うんと楽しいです。その度にみんなの顔を覚えて、今日も走ってるな！がんばれがんばれ！と思ってウォーキングしています。うんと嬉しいです。

地域連携推進会議 当日アンケート結果

参加者数	8名
アンケート回収数	8名

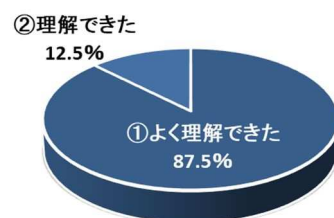
1. 利用者が当センターでどのような生活を送っているか理解できましたか？

①よく理解できた	8名
②理解できた	0名
③あまり理解できなかった	0名
④全く理解できなかった	0名
⑤無回答	0名



2. どのような障害をもっている方が利用しているか理解できましたか？

①よく理解できた	7名
②理解できた	1名
③あまり理解できなかった	0名
④全く理解できなかった	0名
⑤無回答	0名



<推進委員>
アンケート結果

3. 施設入所やグループホームの役割や支援の内容が理解できましたか？

①よく理解できた	8名
②理解できた	0名
③あまり理解できなかった	0名
④全く理解できなかった	0名
⑤無回答	0名



4. 職員の態度や働きについて、気付いたことがありましたらご記入ください

- ・皆さんねっしんに働いてる
- ・職員の数かなり少ないと感じた。とても苦労されていると思う。
- ・職員の表情や挨拶がさわやかな方が多く、声もかけやすいと感じました。
- ・明るい雰囲気を感じていました。
- ・いつも丁寧に対応して下さっています。専門職の目線からの助言、助かっています。
- ・職員にナースコールで知らせた時、対応がすぐにできないことがある。
- ・今日の自己紹介をする前に山添先生からリハーサルをやっていただいて緊張がほぐれて先生方の話がよきこええました。人の話しをきいている時に途中で話し声がきこえなくなる時がありますが今日はなかったです。ありがとうございます。

5. 当センターの運営に関して、気付いたことがありましたらご記入ください

- ・苦情やパワハラなどの対応にご苦労されていることも知ることができました。
- ・センター長の「入り口を大事にしている」という方針が感銘を受けました。多くの方に伝われば良いと思う。
- ・施設入所になるが、あえてバリアを残すなど地域移行というところに目標を置いている対策が多くあり、よいと思った。
- ・各部署の方が他の部署のことをよく理解されているように感じました。日々の情報の共有を心掛けて運営されているように思いますし、また色々難しいことがあってもどう考えるのかということを経験することについて試行錯誤されているのだろうと思います。センター長や副センター長の熱意ある雰囲気が全体に伝わっているのかなと思います。
- ・特になし
- ・この施設も介護が軽い人、重い人と区別して入所するようになってくるのではないかと思います。
- ・今日みたいな会議があって参加させて下さってありがとうございます。私の言ったことがみなさんに役に立ってくれたらうれしいと思います。

6. 今回の会議に参加されて、感じたことやご意見などご記入ください

- ・参加できて良かった。詳しい施設内容がわかりました。
- ・今回のような交流会や勉強会を増やして頂きたい。
- ・事業所の様子を感じることができてよかった。虐待・苦情など赤裸々な意見交換ができたと思う。
- ・ハビリテーリングセンターの事業内容を詳しく知る事ができ、ありがとうございました。
- ・会議室が大きくなかったことがとても良いと思います。交流を喚起する会議になっていたと思います。
- ・様々な関りの方々と一緒にお話ができて、改めてハビリさんの良さを実感しています。これからも春野から一緒に活動や勉強をさせていただきながら、生徒もお世話になりたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。
- ・施設から交通費を支給されたり送迎車が利用できるようにしてほしい。施設内に売店を設置してもらえると嬉しいです。
- ・副センター長さんから言われましたが、地域の人とあいさつでつながれば高知ハビリテーションの人がもっといい人になると思いました。



しごと・生活サポートセンターウェーブ事業報告

センター長 沼 慶子

はじめに

2024年度は【利用者のため、社会のため、そして自分たちのために働く】～やると決めたらやる、妥協しない、仕事から志事へ～をビジョンとして掲げ、個別支援力の向上、活躍できる場所づくり、自然災害への備えの強化、ICTの推進、そして法人を継続させることを計画として取り組みました。災害に関しては2024年2月に職員3名で能登半島地震の避難所へ介護ボランティアに参加したことや8月に南海トラフ地震臨時情報が発表されたこともあり、より具体的に災害を捉えることができ、初めて指定の避難所まで利用者と水平避難訓練を実施することができました。またICTの推進では病院ユニフォームのバーコード化と支援ソフトを4月から導入し、ペーパーレスかつ効率化を実現できました。ただ新規利用者の停滞、利用者の高齢化などで利用者数は伸び悩む一年度でもありました。その中でも、特別支援学校卒業生の100%の定着、年に10回を超えるイベントの開催や近森病院への一般就労の実現、JAや農園での作業は農家等の慢性的な人員不足の一役を担うこともできており、利用者が活躍できる場所づくりができたと感じています。そして個別支援力の向上に関しては、現場支援員に聞くと「その人に合わせた個別支援を行うのは支援員として通常の業務なので成果でもなんでもありません」とのこと。その通常ができること、そう言える支援員の力こそがウェーブのビジョンを現実のものとし、ウェーブのかけがえのない財産であると実感しております。

事業実績概要

2020年以来【A型200名B型1,000名で月延べ人数1,200名】を目標とし取り組んできました。2024度は前年度よりも400名増加しましたが目標を到達できたのは3回のみ。（グラフ1参照）

事業別でみると、A型オウンスは10名雇用を維持しているものの精神症状の影響から休みが続き、B型スウェルについては特別支援学校卒業生が2名利用開始になったものの現在利用されている方々の長期休みや精神症状の不安定さも重なり、両事業ともに月延べ利用者数が伸び悩んだ状況となりました。相談支援事業については人材不足から就労系サービスの継続を優先するため

年度末をもって終了することを決定し、契約者48名を特性と意向に

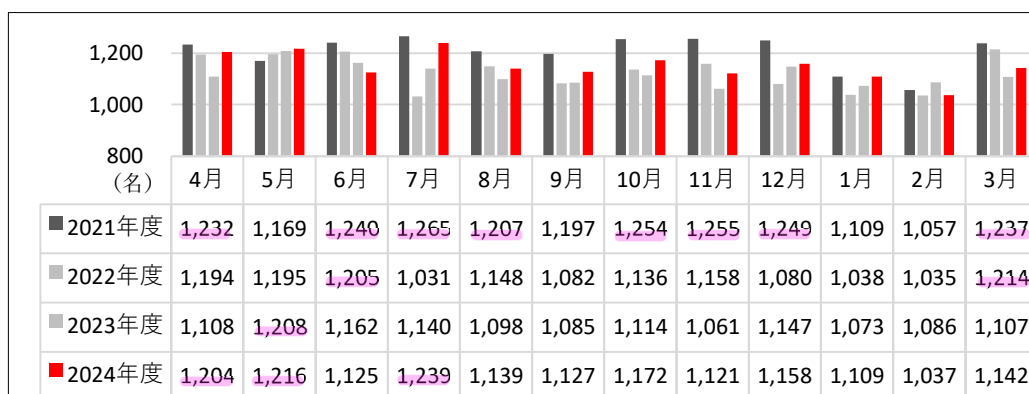
グラフ1. A型B型 月延べ利用者数

応じた相談支援事業所それぞれつなぎ無事終了しています。

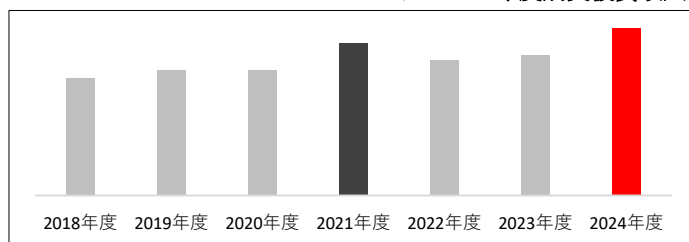
月延べ利用者数で伸び悩んだ一年ではありますが、実はウェーブが始まって以来、支援費収入が最も多い一年度でもありました。（グラフ2参照）

この背景には、数年単位でB型の利用者工賃の引き上げに取り組んできたことや、一般就労へつなぎ半年以上の雇用が継続できていること、クリーニングに加え農作業などの作業収入が安定的に確保されていることによりA型の事業運営が良好であると評価されていることがあげられます。

2025年度は法人として処遇改善加算の引き上げを予定しており、こうした小さくも大切な積み重ねを日々実践している支援員の処遇が少しでも良くなるよう取り組みたいと考えております。尚、利用者のため社会のためにも変わりなく事業をすすめていきたいと考えております。



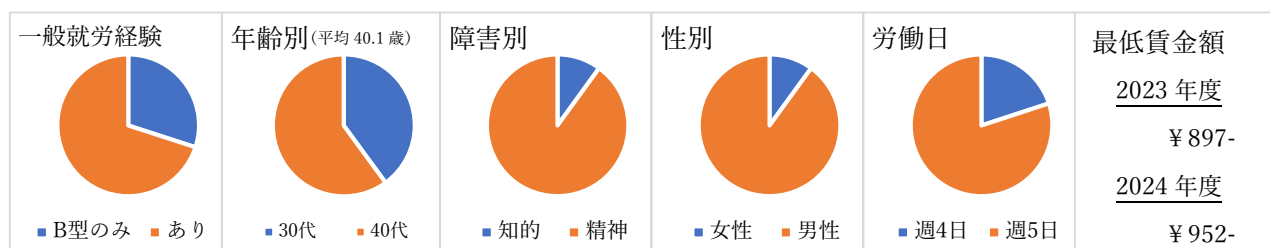
グラフ2. 年度別支援費収入



職員数 13 名 (3 月末時点)	センター長 1 名 相談支援専門員 1 名 (3 月末で終了) サービス管理責任者 (支援員兼務) 2 名 事務員 (支援員兼務) 1 名 支援員 9 名																																				
会議等	職員会：1 回/月、経営戦略会：1 回/月、虐待防止身体拘束適正化委員会：1 回/月																																				
委員会活動	委員会活動は基本的に利用者とともに活動することを主とし、必要に応じて研修会や集会を開催 虐待防止身体拘束適正化：支援の見直し、委員会の開催、ハビリ委員会への出席 防 災 ：BCP 作成、3 ヶ月毎避難訓練研修の実施 広 報 ：ふくらむ原稿、ウェブ新聞発行 衛生美化 ：BCP 作成とシミュレーション、感染予防、月毎健康チェック 美化設備管理、緑化美化、車両管理 苦情解決 ：利用者からの苦情受付、利用者満足度調査の実施 教 育 ：年間教育計画、高知県市の研修企画、施設内研修企画 マルチイベント：施設外での就労の機会、地域協力、農福連携、利用者イベント計画開催																																				
年間行事	6 月 ファミリー高知成果発表会 12 月 ウェーブフェスティバル (文化祭) 1 月 きたほんまちマラソン 3 月 MVP・皆勤表彰 ※3 ヶ月毎 防災訓練や防災に関する研修 ※イベント 上記一部含め 11 回開催																																				
職員研修	相談支援初任者研修 2 名 社会福祉法人会計事務 (上級) 1 名																																				
事故等状況	レベル 3：クリーニング業務中の異物混入による汚染、洗濯中の破損や劣化などが多発 <table><tr><th>事故レベル</th><th>分類</th><th>件数</th><th>詳細</th></tr><tr><td>レベル0</td><td>インシデント</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td>レベル1</td><td>インシデント</td><td>13</td><td>火傷2件/転倒1件/打撲怪我5件/業務過失5件</td></tr><tr><td>レベル2</td><td>アクシデント</td><td>1</td><td>熱中症救急搬送</td></tr><tr><td>レベル3</td><td>事故</td><td>21</td><td>軽作業4件/クリーニング16件/その他1件</td></tr><tr><td>レベル3</td><td>苦情</td><td>9</td><td>軽作業2件/クリーニング7件</td></tr><tr><td>レベル4</td><td>事故</td><td>1</td><td>熱中症のような症状で救急搬送</td></tr><tr><td>車両事故</td><td></td><td>2</td><td>敷地内1件/近森区内1件</td></tr><tr><td>その他</td><td>弁償</td><td>6</td><td>軽作業2件/クリーニング4件</td></tr></table>	事故レベル	分類	件数	詳細	レベル0	インシデント	0		レベル1	インシデント	13	火傷2件/転倒1件/打撲怪我5件/業務過失5件	レベル2	アクシデント	1	熱中症救急搬送	レベル3	事故	21	軽作業4件/クリーニング16件/その他1件	レベル3	苦情	9	軽作業2件/クリーニング7件	レベル4	事故	1	熱中症のような症状で救急搬送	車両事故		2	敷地内1件/近森区内1件	その他	弁償	6	軽作業2件/クリーニング4件
事故レベル	分類	件数	詳細																																		
レベル0	インシデント	0																																			
レベル1	インシデント	13	火傷2件/転倒1件/打撲怪我5件/業務過失5件																																		
レベル2	アクシデント	1	熱中症救急搬送																																		
レベル3	事故	21	軽作業4件/クリーニング16件/その他1件																																		
レベル3	苦情	9	軽作業2件/クリーニング7件																																		
レベル4	事故	1	熱中症のような症状で救急搬送																																		
車両事故		2	敷地内1件/近森区内1件																																		
その他	弁償	6	軽作業2件/クリーニング4件																																		
苦情等状況	・毎年 6 月に満足度調査実施し 97%の利用者に「満足、まあ満足」と評価を得ている ・苦情 1 件 スウェル利用者 (内容) 6 ヶ月毎に行う工賃評価の内容に納得がいかない、モラハラ・パワハラではないか (対応) 評価は支援員数名で行っており一人の支援員の思いに偏ることはなく障害特性に応じて公平に評価をしていること、納得がいかないということであれば各対応窓口にお問い合わせいただいても良いこと伝えている。その後も職員全体で協議等継続。 (結果) 納得はしていないが疑念は残っているようで他の事業所へ移りたいと希望している。																																				

就労継続支援 A 型

■2024 年度利用者状況を可視化（登録者 10 名）



一般就労を経たうえで A 型を利用している方、B 型からステップアップで A 型を利用している方がそれぞれ利用し、年齢は平均 40.1 歳と若く一般の企業へ就職したいと希望されている方も数名所属している。精神障害の方が多く、慣れた環境や慣れた業務を行っていても不安感や気持ちの落ち込みが見られ、他者と自分との関係性や言動に悩みはつきないことも多く、継続して勤務することには大変難しい。その中でも【品質向上】のもと 10 名で協働し、資格の取得も目指している。

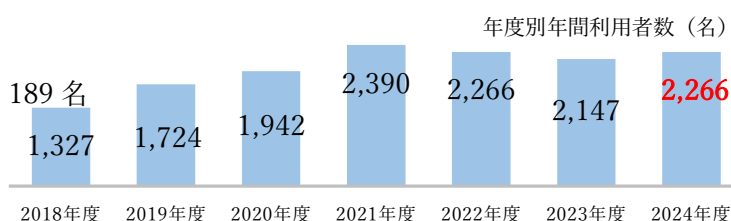
■利用状況と平均賃金

登録者：10 名

一日平均利用者：7 名 月毎利用状況：約 189 名

新規：1 名、終了：0 名

月毎平均賃金：106,754 円



■2024 年度の事業目標達成度を評価 『自分たちで考え行動できるOWNパスに』

■品質向上とチームづくり

『品質向上』を継続して掲げたうえで、個別評価を基にした個別支援を継続し自分たちで考え行動できるよう人材育成、チームワーク、職場環境の工夫を行ってきました。昨年度未達成のクリーニング師試験への合格者 1 名は達成することができ、10 名雇用に戻し維持することができました。また、OWNパス独自のマイスター検定試験を継続しており洗濯業の知識や技術を一定に保ち、毎日の終礼と午前午後の進捗確認も継続したことで業務内容の理解を深めながら取り組むことができ、職員の介入がなくてもスタッフで業務を進めることができ、業務に対する責任感にもつながっている。

■農福連携

2022 年度の 11 月から行っている JA 春野のきゅうり作業も 3 年継続しておりOWNパスで学べない厳しさ優しさ、仕事に触れることができ、これまで参加していなかったスタッフも参加することもできた。

■未実施、未達成

延べ利用者数 200 人を目標に掲げていたが達成できたのは 3 ヶ月のみ。体調不良や精神的なしんどさによる休みが大きな原因であり、目標の到達や業務や品質を維持するためには 11 人目の雇用が必要と考え、新規獲得に向けた見学や体験の受け入れを行ったが、体験するなかで A 型ではなく B 型を希望したり、他の業種の A 型を希望したりと雇用に繋げることができなかった。

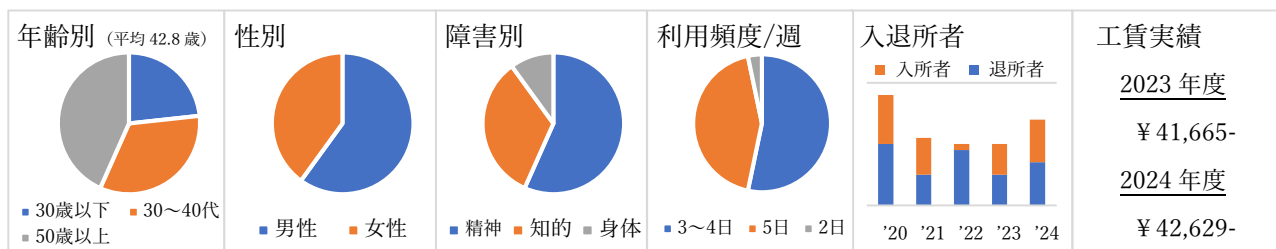
■総括

スタッフ自身で考え行動できることを目標に、個別評価・個別支援を意識し現場でのフィードバックや定期的な振り返りなどを実施。それによって、スタッフのみで業務を進める環境、納品時間を意識した業務遂行などができるようになった一方で、障害特性や能力の違いによる協働の難しさ、コミュニケーションの少なさによる思いや考えの行き違いによる衝突などもしばしば見られた。基本的な進め方のマニュアルはあるもののスタッフの人数や能力により進め方を変更せざるを得ない状況もあるなかで、スタッフ同士が協働し、安定的に進めることができるシステムの再構築が必要であると実感している。

その中でも、業務だけでなく納涼会やイベントも実施し、お互いを知る機会づくりが行えたのは大変有意義であった。

就労継続支援B型

■2024年度利用者状況を可視化（登録者 60 名）



JR やバスなどの公共交通の駅からも近い立地のため通所される方が多く、保護者の送迎で通所される方は知的障害の方が主である。年齢は 18 歳から 71 歳までの方が利用し平均年齢は 43 歳。精神障害の方が多くこともあり症状に合わせた利用頻度となっておりデイケアなどの医療的ケアを併用している方も多く。入退院を繰り返し休みがちになる中でも継続して利用できるよう支援員とサービス管理責任者が連携し、日々支援を行っている。

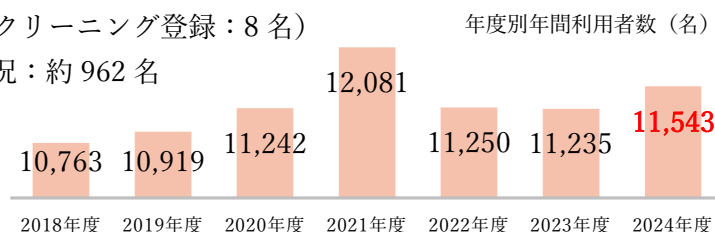
■利用状況と平均賃金

登録者：60 名（軽作業登録：52 名 クリーニング登録：8 名）

一日平均利用者：約 36 名 月毎利用状況：約 962 名

月毎平均工賃：42,629 円

新規：7 名、終了：7 名



■受託業務先

○自主事業：紙エプロン

○清掃：近森病院周辺、施設内清掃

○軽作業：食品関係(カツオ、さきいか、わかめなど)、ハーネス、保護シート、ダイレクトメール

○クリーニング：病棟個人洗濯

○農福連携：ミョウガ、キュウリ、グロリオサ、ピーマンなど

■2024 年度の事業目標達成度を評価 『利用者の思いを達成できるスウェルに』

■個別支援のさらなる強化

利用者一人一人に担当職員を配置。これまで年に 1 回だった工賃評価を半年に 1 回に短縮。工賃評価時期を半年に 1 回にしたことでサービス管理責任者と支援員で 1 人 1 人の利用者の現状を掘り下げて検討、情報共有ができる時間が増えたことや支援員と担当利用者の面談の機会が増えたことでより細やかな評価と関わりができ、それを基に支援計画を立てて実施することができた

■しごと場づくり

目標に向けてチャレンジができる環境づくりを行い、「楽しさ、厳しさ、やりがい」を感じてもらえる支援や「がんばったな、いい仕事をしたな」と達成感を味わえる生活も含めた総合的な支援の展開ができた。

■機会の提供

様々な作業の提供、イベントの実施、目標に向けてチャレンジができる機会を増やしたことで利用者一人一人が「働きたい場所」と思える支援ができた。

■UP!!

前年度は一般就労、A 型に繋がった利用者がいなかったが利用者 1 名を一般就労に繋げることができた。平均工賃 35,000 円以上も検討を重ねることで維持ができた。クリーニング事業拡大のために軽作業利用者にクリーニング作業の体験を実施したことでクリーニング作業に参加ができる利用者を増やすことができた。

■総括

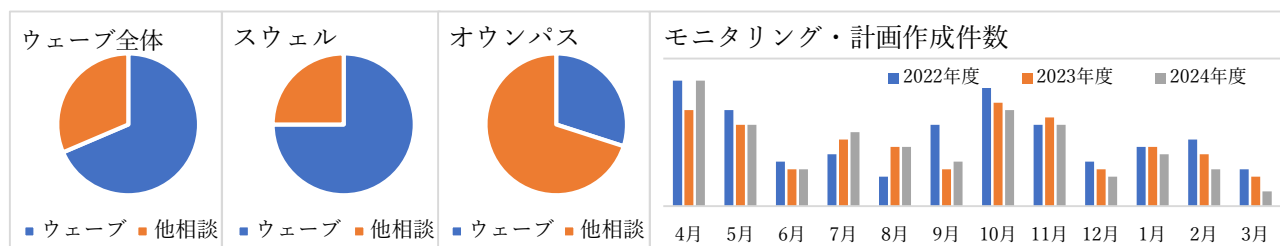
前年度は一般就労、A 型に繋がった利用者がいなかったため今年度の大きな目標として掲げていたが利用者 1 名を一般就労に繋げることができた。平均工賃 35,000 円以上も維持できたため来年度も平均工賃 35,000 円以上の維持、A 型や企業への就職 1 名以上を目指していく。

来年度は引き続き利用者一人一人の思いに合わせた支援を提供できるようアセスメントを強化し、個別の関わりの中で「スウェルは居場所だけではなく就労の場である」という意識を高めていくことをチームで考えていきながら 2025 年度の事業目標を実践していきたい。

特定相談支援

■2024 年度利用者状況を可視化（登録者 48 名）…2024 年 12 月末時点

2025 年 3 月末時点では登録者 0 名となった



2013 年から開始した相談支援事業だが、人材不足等により 2025 年 3 月末にて事業を終了することとした。ウェブが契約していた 48 名に関しては利用者ひとりひとりの意向を確認したうえで他の相談支援事業へ引継ぎをおこなった。

■利用状況

ウェブ利用者：70 名中 48 名（B 型事業所登録：45 名 A 型事業所登録：名）

新規：0 名

終了：48 名（相談支援事業終了に伴いケース引継ぎを行った）

■2024 年度の事業目標達成度を評価 『未来へ羽ばたけるかわりを』

■基本的な関わり

2024 年度は利用者との関わり方について基本的な部分に立ち返り、利用者の思いを大切にし悩みについても客観的に個別化し捉えるよう努めた。利用者の悩みや思いについて、「しょうがない。」「あきらめたほうが良い。」といった対応はせず、まずは受容し解決に導けるような対応を心掛けた。

■当たりまえの姿勢

権利侵害をさせない意識を常に持ちながら、人権侵害に関わる研修を受け知識の向上にも努めた。地域の資源にも目を向け、利用者の希望に沿った事業所の提案や見学など行えた。

■スムーズ&タイムリー

A 型、B 型が同場所にある利点を生かし、担当者会の実施や情報共有をスムーズに出来た。トラブルが起きた際には迅速に対応し、面談など対応が実践し今後の方向性や対策等を検討実践ができた。ホワイトボードを使い、月ごとのモニタリングや更新の数を把握し、期限内に書類提出も行えた。書類のファイリングはモニタリングや更新を行った翌月には実施した。

■総括

今年度で相談支援事業が終了となり、48 名全員のケース引継ぎが必要となった。幸いにしてケース引継ぎをしていただけた相談支援事業所が早い段階で見つかり、遅滞なくケースの引継ぎを行うことができた。

利用者からの相談を受ける中で老いや身体機能低下など肉体的な悩みをもつ方が多かった。高齢に差し掛かった利用者の身体的な悩みに寄り添い、今後どういった生活を送るか共に模索し地域包括支援センターと連携を取りながら寄り添った支援に努めた。また怪我の影響により、通所負担が増した利用者に対してもその思いを受容し、支援者や外部の関係機関と連携をとりながら解決策を見つけることができた。

事業継続を利用者や家族から惜しまれつつ事業終了となったが、相談支援事業に関わり学んだことを今後の支援に活かせるよう心掛けていく。